令和5年度

履修科目ガイド

言語聴覚学科

リハビリテーションカレッジ島根

言語聴覚学科　新教育課程

教育内容		授業科目	単位	履修時間	1年		2年		3年		4年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎科目	人文科学	心理学	2	30		30						
		日本語表現	2	30	30							
		4単位/ 2科目 合計	4	60	30	30	0	0	0	0	0	0
	社会科学	人間関係学	2	30		30						
		コミュニケーション論	2	30	30							
		社会保障学	2	30					15	15		
		6単位/ 3科目 合計	6	90	30	30	0	0	15	15	0	0
	自然科学	統計学	2	30	30							
		生物学	2	30	30							
		音の物理学	2	30	15	15						
		6単位/ 3科目 合計	6	90	75	15	0	0	0	0	0	0
	保健体育	保健体育(実技)	1	45	45							
		保健体育(講義)	1	15			15					
		2単位/ 2科目 合計	2	60	45	0	15	0	0	0	0	0
	外国語	英会話	2	30	30							
		専門英語	2	30			15	15				
		4単位/ 2科目 合計	4	60	30	0	15	15	0	0	0	0
専門基礎科目	基礎医学	解剖学Ⅰ(骨学・靭帯学・筋学)	4	60	30	30						
		解剖学Ⅱ(循環器学・内臓学・神経学)	4	60	30	30						
		生理学	4	60	30	30						
		病理学	1	15			15					
		医学総論	1	15		15						
		14単位/ 5科目 合計	14	210	90	105	15	0	0	0	0	0
	臨床医学	内科学	4	60			30	30				
		老年学	1	15				15				
		神経内科学	2	30			15	15				
		小児科学	1	15				15				
		精神医学	2	30			15	15				
		リハビリテーション医学(薬理・栄養含)	4	60			30	30				
		耳鼻咽喉科学	2	30				30				
		救命医学	2	30			30					
		形成外科学	1	15				15				
		19単位/ 9科目 合計	19	285	0	0	120	165	0	0	0	0
	臨床歯科口腔外科学	臨床歯科口腔外科学	2	30			30					
		2単位/ 1科目 合計	2	30	0	0	30	0	0	0	0	0
	音声・言語・聴覚医学	呼吸発声発語系の構造と機能	2	30	15	15						
		聴覚系の構造・機能	2	30	15	15						
		神経系の構造・機能・病態	2	30	15	15						
		6単位/ 3科目 合計	6	90	45	45	0	0	0	0	0	0
	心理学系	臨床心理学	2	30			15	15				
		生涯発達心理学	2	30			30					
		学習・認知心理学	2	30				30				
		検査法Ⅰ	2	30				30				
		検査法Ⅱ	6	90					60	30		
		心理測定法	2	30					15	15		
		16単位/ 6科目 合計	16	240	0	0	45	75	75	45	0	0
	言語学	言語学	2	30			30					
		2単位/ 1科目 合計	2	30	0	0	30	0	0	0	0	0
	音声学	音声学	3	45	15	30						
		3単位/ 1科目 合計	3	45	15	30	0	0	0	0	0	0
	音響学	音響学・聴覚心理学	2	30					15	15		
		2単位/ 1科目 合計	2	30	0	0	0	0	15	15	0	0
	言語発達学	言語発達学	2	30		30						
		言語発達学演習	3	45			25	20				
		5単位/ 2科目 合計	5	75	0	30	25	20	0	0	0	0
	社会福祉・教育系	リハビリテーション概論	2	30	15	15						
		関係法規	1	15						15		
		3単位/ 2科目 合計	3	45	15	15	0	0	0	15	0	0
専門科目	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学概論	2	60	20	40						
		地域言語聴覚療法学	1	30					15	15		
		言語聴覚障害診断学	1	30					15	15		
		4単位/ 3科目 合計	4	120	20	40	0	0	30	30	0	0
	失語症・高次脳機能障害学	失語症Ⅰ	2	60			30	30				
		失語症Ⅱ	2	60					30	30		
		高次脳機能障害	2	60					30	30		
		6単位/ 3科目 合計	6	180	0	0	30	30	60	60	0	0
	言語発達障害学	言語発達障害Ⅰ	1	30			15	15				
		言語発達障害Ⅱ	2	60					30	30		
		言語発達障害演習	2	45					20	25		
		脳性麻痺	2	45			20	25				
		7単位/ 4科目 合計	7	180	0	0	35	40	50	55	0	0
	発声発語・嚥下障害学	音声障害	1	30					15	15		
		器質性構音障害	1	30					30			
		機能性構音障害	1	30			15	15				
		運動性構音障害Ⅰ	1	30			15	15				
		運動性構音障害Ⅱ	1	30					15	15		
		摂食嚥下障害Ⅰ	1	30			15	15				
		摂食嚥下障害Ⅱ	2	60					30	30		
		吃音	1	30			15	15				
		9単位/ 8科目 合計	9	270	0	0	60	60	90	60	0	0
	聴覚障害学	聴覚障害Ⅰ	2	60			30	30				
		聴覚障害Ⅱ	1	20					20			
		視覚聴覚二重障害	1	30					30			
		補聴器	1	30					30			
		手話Ⅰ	2	60	30	30						
		手話Ⅱ	1	30			30					
		8単位/ 6科目 合計	8	230	30	30	60	30	80	0	0	0
	臨床実習	評価実習	3	120						120		
		臨床実習	14	560							280	280
		17単位/ 2科目 合計	17	680	0	0	0	0	0	120	280	280
選択必修科目	選択必修科目	解剖学演習	1	15			15					
		言語聴覚療法学特論	8	120							60	60
		嚥下障害概論	2	30		30						
		ゼミナール	2	30		30						
		ST援助技術	2	30					15	15		
		HR	8	120							60	60
		23単位/ 6科目 合計	23	345	0	60	15	0	15	15	120	120
総単位数・時間数及び学年別時間数			168	3445	425	430	495	435	430	430	400	400
					855		930		860		800	

目　次

◎1年次　開講科目

心理学 …… 1
日本語表現 …… 2
人間関係学 …… 3
コミュニケーション論 …… ＊
統計学 …… 4
生物学 …… 5
音の物理学 …… 6
保健体育（実技） …… 7
英会話 …… 8
解剖学Ⅰ（骨学・靭帯学・筋学） …… 9
解剖学Ⅱ（循環器学・内臓学・神経学） …… 10
生理学 …… 11
医学総論 …… 12
呼吸発声発語系の構造と機能 …… 13
聴覚系の構造・機能 …… 14
神経系の構造・機能・病態 …… 15
音声学 …… 16
言語発達学 …… 17
リハビリテーション概論 …… 18
言語聴覚障害学概論 …… 19
手話Ⅰ …… 20
嚥下障害概論 …… 21
ゼミナール …… 22

（注）　＊の講義科目に関しては、担当講師の都合により後日配布します。

◎2年次　開講科目

保健体育（講義）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
専門英語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
病理学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
内科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
老年学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
神経内科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
小児科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
精神医学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
リハビリテーション医学（薬理・栄養含）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
耳鼻咽喉科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
救命医学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
形成外科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
臨床歯科口腔外科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
臨床心理学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
生涯発達心理学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
学習・認知心理学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
検査法Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
言語学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
言語発達学演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
失語症Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
言語発達障害Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
脳性麻痺・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
機能性構音障害・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
運動性構音障害Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
摂食嚥下障害Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
吃音・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
聴覚障害Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
手話Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
解剖学演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51

◎3年次　開講科目

社会保障学 …… 52
検査法Ⅱ …… 53
心理測定法 …… 54
音響学・聴覚心理学 …… 55
関係法規 …… 56
地域言語聴覚療法学 …… 57
言語聴覚障害診断学 …… 58
失語症Ⅱ …… 59
高次脳機能障害 …… 60
言語発達障害Ⅱ …… 61
言語発達障害演習 …… 62
音声障害 …… 63
器質性構音障害 …… 64
運動性構音障害Ⅱ …… 65
摂食嚥下障害Ⅱ …… 66
聴覚障害Ⅱ …… 67
視覚聴覚二重障害 …… 68
補聴器 …… 69
評価実習 …… 70
解剖学演習 …… 71
ST援助技術 …… 72

◎4年次　開講科目

臨床実習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
言語聴覚療法学特論 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
HR ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75

１年次

開講科目

授業科目名	心理学			(フリガナ) 担当教員名	岩橋（イワハシ）　由佳（ユカ）
開講学年	１年	開講学期	前期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

心理学全般を広く紹介します。臨床場面のみならず日々使える心理学をお伝えします。授業内容は進行具合で変更することがあります。

GIO（一般目標）

心理学の基礎的な知識を身につけることができる。

SBO（行動目標）

心理学全般を学び日頃の生活面及び臨床場面で活かすことができる。

授業回数	授業内容
第1回	オリエンテーション・心理学概説
第2回	心理学概説（２）
第3回	感覚・知覚・注意・認知
第4回	情動・動機付け・パーソナリティ・社会
第5回	記憶・学習
第6回	言語・概念・思考
第7回	発達と知能
第8回	臨床心理学とは
第9回	防衛機制
第10回	心理アセスメント
第11回	臨床で用いられる心理検査
第12回	臨床心理学の介入方法（行動的）
第13回	臨床心理学の介入技法（内面的）
第14回	臨床心理学の介入技法（相談的）
第15回	統括　心理学のまとめ

成績評価基準

筆記試験100%

教科書

内山 靖・藤井 浩美・立石 雅子 編：リハベーシック　心理学・臨床心理学；医歯薬出版株式会社

参考書

実務経験に関する内容

臨床心理士、公認心理師の資格を有する講師により、心理学の基本的な知識について教育する。

授業科目名	日本語表現			(フリガナ) 担当教員名	フクダ　カズコ 福田　和子
開講学年	1年	開講学期	前期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

古事記神話を読む　　小論文を書く　　毎時間小テスト

GIO（一般目標）

古事記神話の概要を理解する　　論理的思考をする

SBO（行動目標）

神話で語られている考え方が現代に活きていることを説明できる
論理的思考に基づいて小論文を書いてみる

授業回数	授業内容
第1回	古事記について　国生み　・　神生み
第2回	天岩戸
第3回	ヤマタのオロチ退治
第4回	因幡の白兎
第5回	オオクニヌシの国作り・国譲り
第6回	天孫降臨
第7回	竜宮伝説
第8回	まとめ
第9回	論理的思考力
第10回	言い換える力①
第11回	言い換える力②
第12回	比べる力
第13回	たどる力
第14回	小論文①
第15回	小論文②

成績評価基準

定期テスト85%　　小テスト（提出）15%

教科書

まんが 古事記　　ふわこういちろう 著　　戸矢学 監修　　講談社

参考書

実務経験に関する内容

授業科目名	人間関係学			(フリガナ) 担当教員名	オオ ニシ　ケイ コ 大西　恵子
開講学年	1年	開講学期	後期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

「人間関係学」「ビジネスマナー」とっつきにくそうなこのテーマを皆さんと学びましょう。
15時間の講義が終わる頃には、きっと何かが変わっているはずです。

GIO（一般目標）

円滑な人間関係を保つために自己発見とマナーの習得

SBO（行動目標）

マナーの基本を説明できる。

授業回数	授業内容
第1回	はじめに　「社会人に求められる能力」
第2回	〃　「自分の今を見つめてみよう」
第3回	ビジネスマナーとは？　「マナーの重要性」
第4回	「マナーの基本になる5つのエレメント」
第5回	コミュニケーション能力を磨こう（1）　「話し方と聞き方」
第6回	〃
第7回	コミュニケーション能力を磨こう（2）　「報告、連絡、相談」
第8回	「思いやりとおせっかいのちがい」
第9回	コミュニケーション能力を磨こう（3）　「電話での受け答え」
第10回	「　〃　」
第11回	ビジネスマナーの実際　「電話応対」
第12回	「訪問のしかた」
第13回	「仕事の中での接し方」
第14回	「お礼状や報告書の作成」
第15回	まとめ（レポートテスト）　「あなたにとって人間関係学とは？」

成績評価基準

毎回提出していただくレポート(講義中に作成)
課題作成　1回

教科書

デジタル時代のマナー術
トータルセルフチェックシート
講義ごとに配布するプリント

参考書

実務経験に関する内容

キャリアコンサルタントの資格を有する講師が、「人間関係」「ビジネスマナー」を中心とした、円滑な人間関係を保つための自己発見とマナーに関する教育を行う。

授業科目名	統計学			(フリガナ) 担当教員名	サカモト　クニ　ヒロ 坂本　邦博
開講学年	1年	開講学期	前期	必修／選択	必修
授業形態	演習	単位数	2	時間数	30

授業概要

パソコンは、学生の時も社会人になっても、不可欠な道具です。
楽しく学習しましょう。

GIO（一般目標）

多種多様な大量の情報から必要なものを抽出・分析して、「真理」を探求し、その結果を正しく「発信」する技能を習得する。

SBO（行動目標）

①Word、Excelの基本操作ができる。
②パワーポイントが作成できる。

授業回数	授業内容
第1回	パソコンの基本操作
第2回	ファイル管理
第3回	Ｗｏｒｄ　基本操作・文字入力
第4回	Ｗｏｒｄ　文章作成・修飾・編集
第5回	Ｗｏｒｄ　表の作成・印刷
第6回	Ｗｏｒｄ　表現力のアップ
第7回	Ｗｏｒｄ　段組み
第8回	Ｐｏｗｅｒ　Ｐｏｉｎｔ　基礎
第9回	Ｅｘｃｅｌ　関数（１）
第10回	Ｅｘｃｅｌ　関数（２）
第11回	Ｅｘｃｅｌ　グラフ機能の活用
第12回	Ｅｘｃｅｌ　データベース機能の活用
第13回	Ｅｘｃｅｌ　ピボットテーブルとピボットグラフ機能
第14回	Ｅｘｃｅｌ　マクロ機能
第15回	総合演習

成績評価基準

演習試験　50%
課題　50%

教科書

よくわかるMicrosoft Word 2019 ＆ Microsoft Excel 2019 ＆ Microsoft Power Point 2019
FOM出版

参考書

医療・看護系のための情報リテラシー　(東京出版)

実務経験に関する内容

企業でプログラミングに従事したきた教員により、データの集積と検索、及び分析の複雑な手操作を自動化する方法を教育する。

授業科目名	生物学			(フリガナ) 担当教員名	タキグチ モト ユキ 滝口　素行
開講学年	1年	開講学期	後期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

生物学の内容のうち、福祉に関係ありそうなトピックをとり上げる

GIO（一般目標）

福祉を学ぶ上で、その基礎として必要な生物学的内容を幅広く学ぶ態度、意欲を育てる

SBO（行動目標）

出席し、授業に参加する
レポートは必ず提出する

授業回数	授業内容
第1回	授業概要・評価方法
第2回	感染症
第3回	免疫のしくみ
第4回	メンデル遺伝
第5回	分子遺伝
第6回	ゲノム編集
第7回	ips細胞
第8回	脳１　心のはたらき
第9回	脳２　脳はだまされる
第10回	脳３　ブレイン、マシン、インターフェイス
第11回	脳４　言語
第12回	進化１　地球の歴史
第13回	進化２　ヒトの歴史
第14回	進化心理学、バイオフィリアなど
第15回	生物多様性

成績評価基準

レポート　100%

教科書

プリント配布

参考書

実務経験に関する内容

授業科目名	音の物理学			(フリガナ) 担当教員名	ナカヤマ　ジュンペイ 中山　純平
開講学年	1年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

音響学の内容を踏まえつつ、音の原理について物理的な観点からの理解を目指す。一方的な講義だけではなく演習の時間を多く設け、知識を「使う」ための練習をして真の理解につなげる。

GIO（一般目標）

音響学を学ぶためのベースとなる、音に関する物理的な原理を理解すること。

SBO（行動目標）

・授業で扱った内容を他者に説明できること。
・身の回りに存在する音について、物理の視点から考察できること。

授業回数	授業内容
第1回	音波とは（音の速さ、音が伝わる原理など）
第2回	波の基本性質①（振幅、周波数、周期、波長など）
第3回	波の基本性質②（反射、回折、屈折、干渉など）
第4回	音の強さと大きさ、音圧とデシベル①（強さ・大きさのちがい、音圧）
第5回	音の強さと大きさ、音圧とデシベル②（デシベルとlog）
第6回	音の強さと大きさ、音圧とデシベル③（音圧レベル、聴力レベルなど）
第7回	問題演習
第8回	音に関する物理現象①（ハウリング、ノイズキャンセリングなど）
第9回	音に関する物理現象②（共鳴、うなり、ドップラー効果など）
第10回	音の波形とスペクトル①
第11回	音の波形とスペクトル②
第12回	音の三要素とオクターブ
第13回	可聴域（モスキートーン、超音波、超低周波など）
第14回	問題演習
第15回	問題演習

成績評価基準

①授業後とのレポート（学習に対する姿勢、音の物理に対する思考力・考察力）
②定期試験（音の物理に対する理解度）
※①②療法が合格水準に到達していること

教科書

配布資料

参考書

『言語聴覚士の音響学入門』　著：吉田友敬　発行：海文堂
『トコトンやさしい音の本』　著：戸井武司　発行：B＆Tブックス　日刊工業新聞社

実務経験に関する内容

授業科目名	保健体育（実技）			（フリガナ） 担当教員名	タバラ タダアキ ヒラカワ チエコ ホンダ マナミ 田原忠明・平川智恵子・本多真奈美
開講学年	1年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	演習	単位数	1	時間数	45

授業概要

自らの健康に留意し、仲間との関わりを豊かにしてスポーツに自主的に親しむ。（田原）
運動を通して心身のリフレッシュおよび協調性を養う。（本多・平川）

GIO（一般目標）

他人と比較することなく，自らの動きに意識させ，自らの身体をしっかり動かし，自分と向き合う時間を創る。（田原）
心身のリフレッシュを図る。（本多・平川）

SBO（行動目標）

自ら見て，聞いて，考え，判断し，行動することで　自らの技術の上達，成長を体感・体得する。（田原）
協調性を持ってスポーツに参加できる。（本多・平川）

授業回数	授業内容
第1回	オリエンテーション・アンケート・アイスブレイク等（田原）
第2回	軽スポーツ（田原）
第3回	軽スポーツ（田原）
第4回	軽スポーツ（田原）
第5回	軽スポーツ（田原）
第6回	軽スポーツ（田原）
第7回	軽スポーツ（田原）
第8回	オリエンテーション・アンケート等（田原）
第9回	軽スポーツ（田原）
第10回	軽スポーツ（田原）
第11回	軽スポーツ（田原）
第12回	軽スポーツ（田原）
第13回	軽スポーツ（田原）
第14回	軽スポーツ（田原）
第15回	軽スポーツ（本多）
第16回	軽スポーツ（本多）
第17回	福祉レクリエーション（平川）
第18回	福祉レクリエーション（平川）
第19回	軽スポーツ（平川）
第20回	軽スポーツ（平川）
第21回	盲導犬キャラバン（平川）
第22回	盲導犬キャラバン（平川）
第23回	盲導犬キャラバン（平川）

成績評価基準

関心・意欲・態度、技能（田原）
授業態度（平川・本多）

教科書

参考書

実務経験に関する内容

田原：中学校、高等学校教諭免許（保健体育）を有し、保健体育の指導を行ってきた教員が担当する。
本多・平川：福祉レクリエーションワーカーの資格を持ち、病院・施設でレクリエーションを経験した教員が担当する。

授業科目名	英会話			(フリガナ) 担当教員名	原田（ハラダ）　レネー
開講学年	1年	開講学期	前期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

Reviewing basic English Communication Skills.
英会話の練習。簡単な文法でコミュニケーションできるようになりましょう。

GIO（一般目標）

Few therapists use English conversation at work so why should they study English conversation?Communicating only in English is like a handicap for some. It's frustrating and it's hard. It's much like rehabilitation.The patient often wants to do something but cannot do so freely. Being in an English only environment, students learn how their future patients will feel. They learn that by trying and effort, they can do it.

SBO（行動目標）

①簡単な日常英会話ができるようになる。
②簡単な英文を理解できるようになる。

授業回数	授業内容		
第1回	Spelling Practice	綴りの練習	Greetings/ Introductions 挨拶　・　紹介
第2回	Numbers pronunciation	数字の発音	
第3回	verb 'to be'　+　adjectives	be 動詞 +　形容詞	Descriptions 描写
第4回	Making sentences	短い 文章の作成 主語 + 動詞 + 目的語	Building blocks of English 英語の基本
第5回	Prepositions	前置詞	Where are you?
第6回	Adverbs of frequency	頻度の副詞	sometimes/ usually/ never
第7回	Asking questions Do you + 動詞	do動詞を使って疑問の作成	クイズ作成
第8回	Asking questions Are you + 形容詞・補語	be動詞を使って疑問の作成	クイズ
第9回	There is/ There are	～がある・いる	Descriptions of places 場所を描写
第10回	Imperatives	命令文	薬局のロールプレー
第11回	Imperatives　+　Review prepositions	命令文	道を教える事
第12回	Abilities	can + 動詞	出来る・出来ない
第13回	Present progressive	be動詞 + ～ing	
第14回	Near　future	be動詞 + ～ingの復習	Making and appointment 近い将来
第15回	総合演習		

成績評価基準

２０% participation	積極的参加度
２０% quiz	小テスト
６0%　final exam	最終試験

教科書

英会話Ｉ　English Conversation for Therapists
英和和英辞書*

参考書

実務経験に関する内容

英会話教師による基本的な英会話について、ロールプレーを交えて教育を行う。

授業科目名	解剖学Ⅰ（骨学・靭帯学・筋学）			（フリガナ） 担当教員名	キッカワ コウジロウ イシカワ シンジ 吉川 幸次郎・石川 慎二
開講学年	1年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義・演習・実習	単位数	4	時間数	60

授業概要

前期は主に骨学・骨の連結について講義を実施する。後期は骨の連結に加えて筋学に関する講義を行う。

GIO（一般目標）

骨・関節・靭帯・筋の構造をイメージできるようになる。

SBO（行動目標）

習得すべき知識量は膨大なので毎回復習をすること。

授業回数	授業内容		授業回数	授業内容	
第1回	脊椎・胸郭の解剖	吉川	第16回	骨盤連結	吉川
第2回	脊椎・胸郭の解剖	吉川	第17回	骨盤周囲　殿部の筋	吉川
第3回	付属性骨格（下肢帯）の解剖	吉川	第18回	自由下肢連結	吉川
第4回	付属性骨格（下肢）の解剖	吉川	第19回	自由下肢の筋	吉川
第5回	付属性骨格（下肢）の解剖	吉川	第20回	自由下肢の筋	吉川
第6回	付属性骨格（下肢）の解剖	吉川	第21回	肩関節・上肢帯の筋	石川
第7回	体軸性骨格（頭蓋骨）の解剖	吉川	第22回	肩関節・上肢帯の筋	石川
第8回	体軸性骨格（頭蓋骨）の解剖	吉川	第23回	自由上肢連結	石川
第9回	体軸性骨格（頭蓋骨）の解剖	吉川	第24回	自由上肢の筋	石川
第10回	付属性骨格（上肢帯）の解剖	石川	第25回	自由上肢の筋	石川
第11回	付属性骨格（上肢）の解剖	石川	第26回	頭頸部・咽頭・喉頭筋	吉川
第12回	付属性骨格（上肢）の解剖	石川	第27回	頭頸部・咽頭・喉頭筋	吉川
第13回	付属性骨格（上肢）の解剖	石川	第28回	頭頸部・咽頭・喉頭筋	吉川
第14回	脊柱・頭蓋骨・胸郭の連結	石川	第29回	腹部・胸郭の筋	吉川
第15回	上肢帯の連結	石川	第30回	腹部・胸郭の筋	吉川

成績評価基準

前・後期それぞれ筆記テストを実施する。
筆記試験100%

教科書

奈良勲　鎌倉矩子 ：標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学，医学書院（第5版）
渡辺正仁：PT・OT・STのための解剖学　廣川書店

参考書

実務経験に関する内容

本科目はオムニバスである。医療機関等で理学療法士、作業療法士として従事してきた教員が骨・筋・関節・靭帯など筋骨格系の講義を行う。骨模型等を用いた実践的な教育を行う。

授業科目名	解剖学Ⅱ（循環器学･内臓学・神経学）			(フリガナ) 担当教員名	キッカワ　コウジロウ 吉川　幸次郎
開講学年	1年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義・演習・実習	単位数	4	時間数	60

授業概要

身体の内臓および神経系の構造を全般にわたり学習する。

GIO（一般目標）

①人体の構造をはたらきと関連づけて理解できるようになること。
②学習終了時に循環器・神経の名称や位置を習得し、各組織の働きについても理解が可能となり、2年の疾患、病気の理解する事業に生かされること。

SBO（行動目標）

講義の中で、教科書内の図や文章から各身体部位の構造を習得する。演習問題も実施する。

授業回数	授業内容	授業回数	授業内容
第1回	細胞とは、組織学：上皮、腺、結合組織の構造	第16回	感覚器系：視覚器・平衡感覚器
第2回	組織学：骨、軟骨の構造	第17回	内分泌系：ホルモン分泌組織・器官
第3回	神経系：神経系総論	第18回	脊髄
第4回	筋骨格系：筋総論	第19回	脳幹
第5回	循環器系：　心臓	第20回	中脳・小脳・間脳
第6回	呼吸器系：鼻腔・気管・気管支	第21回	大脳①
第7回	呼吸器系：肺	第22回	大脳②
第8回	消化器系：口腔・食道	第23回	脳神経①
第9回	消化器系：胃・小腸・大腸	第24回	脳神経②
第10回	消化器系：胆嚢・肝臓・膵臓	第25回	脳の血管
第11回	泌尿器系：腎臓その他の泌尿器	第26回	脊髄神経①
第12回	男女生殖器：男女生殖器の構造と男女の違い	第27回	脊髄神経②
第13回	循環器系：全身の血管	第28回	運動・感覚の伝導路
第14回	循環器系：静脈・リンパ	第29回	自律神経
第15回	感覚器系：皮膚の感覚・嗅覚器・味覚器	第30回	発生学：人体発生学

成績評価基準

筆記100%

教科書

奈良勲　鎌倉矩子 ：標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学，医学書院（第5版）
渡辺正仁：PT・OT・STのための解剖学　廣川書店

参考書

実務経験に関する内容

介護老人保健施設で実務に従事し、大学院にて解剖学を研究した講師が担当する。

授業科目名	生理学			(フリガナ) 担当教員名	橋本(ハシモト) 道男(ミチオ)・松崎(マツザキ) 健太郎(ケンタロウ) 山城(ヤマシロ)　安啓(ヤスヒロ)
開講学年	1年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60

授業概要

生理学はただ覚えるだけの学問ではありませんので、難しいといわれますが、良く考えて一度理解するとその面白さが分かると思います。がんばって学習してください。（橋本・松崎）

復習を中心とした勉強をお願いします。（山城）

GIO（一般目標）

ヒトの生理的機能の基本的事項について個体レベルを中心に学ぶ。

SBO（行動目標）

①人体の基本的構造と機能を理解する。

②神経と筋肉の基本的機能・神経系の機能および感覚器について理解する。

授業回数	授業内容	授業回数	授業内容
第1回	イントロダクション、代謝	第16回	生理学の基礎　1
第2回	体温の調節、発熱とはなにか	第17回	〃　2
第3回	消化器系の概要	第18回	〃　3
第4回	消化、吸収のしくみ	第19回	〃　4
第5回	循環系の概要	第20回	筋肉の基本的機能　1
第6回	心臓と血管の働き	第21回	〃　2
第7回	血圧の調節	第22回	〃　3
第8回	血液のはたらき、凝固系	第23回	神経の基本的機能　1
第9回	呼吸のしくみ	第24回	〃　2
第10回	酸素、二酸化炭素の運搬	第25回	神経系の機能　1
第11回	尿の生成と排泄	第26回	〃　2
第12回	体液とその調節	第27回	感覚の生理学　1
第13回	内分泌系の概要	第28回	〃　2
第14回	ホルモンの調節と役割	第29回	〃　3
第15回	生殖のしくみ	第30回	〃　4

成績評価基準

筆記試験（橋本・松崎）

復習小テスト　又は　レポート（山城）

本試験（山城）

教科書

人体の構造と機能[1]　解剖生理学 ；医学書院（橋本・松崎）

貴邑冨久子、根来英雄 ： シンプル生理学．南江堂　2016年改訂第7版（山城）

参考書

実務経験に関する内容

本科目はオムニバスである。臨床検査技師免許を有する講師や、日本生理学会、日本生気象学会に所属する講師により、生理学の基本的知識について講義する。

授業科目名	医学総論			(フリガナ) 担当教員名	アオキ コウ クリバヤシ カズキ 青木 耕・栗林 一樹
開講学年	1年	開講学期	後期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業概要

現在の日本の医学界の現状を知り、これからの医学を学ぶ。

GIO（一般目標）

医療界の現状を把握し、セラピストとして貢献できることを考える。

SBO（行動目標）

①日本の現状を理解できる。
②医の倫理に配慮できる。

授業回数	授業内容	
第1回	少子高齢化の問題	栗林
第2回	日本人の死因と要介護の原因	栗林
第3回	障害の概念	栗林
第4回	リハビリテーションの概念	青木
第5回	医療の倫理	青木
第6回	医療安全と感染予防	青木
第7回	健康管理と予防医学	青木
第8回	これからの医療	青木

成績評価基準

筆記試験100%

教科書

配布資料

参考書

実務経験に関する内容

急性期や回復期リハ、生活期リハ、小児リハビリテーションにおいて言語聴覚療法の臨床経験を持つ教員が、現在の医学問題に関する基礎知識、評価診断についての講義を行う。

授業科目名	呼吸発声発語系の構造と機能			(フリガナ) 担当教員名	ホンダ マナミ 本多　真奈美
開講学年	1年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

息をすること、食べることは生きるために必要です。ヒトは、これらと同じ器官を使って話すこともできます。呼吸発声発語器官の構造と機能を学び、摂食嚥下障害、構音障害、音声障害などの専門科目の理解につなげます。

GIO（一般目標）

呼吸器系、喉頭、口腔を中心とした構造と機能を理解できる。

SBO（行動目標）

①発語の産生過程が説明できる。
②顔面、口腔、咽頭、喉頭の筋・神経が説明できる。

授業回数	授業内容
第1回	呼吸発声発語系の概要
第2回	頭頸部の正中矢状断面図
第3回	顔面の構造
第4回	口腔の構造・機能　表情筋
第5回	咀嚼筋　咽頭の構造・機能
第6回	舌の構造・機能
第7回	軟口蓋の構造・機能
第8回	鼻咽腔閉鎖機能
第9回	喉頭の構造
第10回	喉頭筋
第11回	喉頭の神経
第12回	声帯の構造
第13回	声の大きさ・高さ・長さ・質
第14回	呼吸筋の構造
第15回	呼吸機能の検査

成績評価基準

試験　90%　　小テスト・課題　10%

教科書

藤田郁代：標準言語聴覚障害学　発声発語障害学　第3版.医学書院,2021

参考書

資料を配布します。

実務経験に関する内容

回復期・生活期を担う病院および老人保健施設で言語聴覚士として従事し、多様な疾患に言語訓練・嚥下訓練を実践した教員が、呼吸発声発語器官の構造と機能の基礎について教授する。

授業科目名	聴覚系の構造・機能			(フリガナ) 担当教員名	青木（アオキ）　耕（コウ）
開講学年	1年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

聴覚系のしくみと聴覚生理学の基本事項を理解し、聴覚障害の種類を学ぶ。

GIO（一般目標）

聴覚系の基本事項を理解する。

SBO（行動目標）

①聴覚系の基本構造と機能を説明できる。
②聴覚機構の疾患・病態、検査、診断、治療について基本概念を説明できる。
③気導聴力検査を理解し実施できる。

授業回数	授業内容
第1回	難聴体験
第2回	耳の構造（外耳のしくみ）
第3回	耳の構造（中耳のしくみ）①
第4回	耳の構造（中耳のしくみ）②
第5回	耳の構造（内耳のしくみ）①
第6回	耳の構造（内耳のしくみ）②
第7回	耳の機能（音の増幅について）
第8回	伝音性難聴と感音性難聴
第9回	発症時期による分類と特徴
第10回	難聴の症状とその影響
第11回	気導聴力検査の仕組み
第12回	気導聴力検査の実技
第13回	平均聴力レベルの算出方法
第14回	オージオグラムの概要
第15回	オージオグラムから評価する

成績評価基準

定期試験　100%

教科書

病気がみえる13　耳鼻咽喉科　MEDIC MEDIA

参考書

実務経験に関する内容

病院にて聴覚に関する臨床経験がある教員が聴覚系の解剖や検査法について講義を行う。

授業科目名	神経系の構造・機能・病態			(フリガナ) 担当教員名	クリバヤシ　カズキ 栗林　一樹
開講学年	1年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

神経系の構造・機能を理解した上で病態を学ぶ。

GIO（一般目標）

神経系の構造・機能・病態について説明できる。

SBO（行動目標）

①神経細胞の形態と情報伝達の仕組みを理解できる。
②脳と脊髄の構造・機能、および主要な伝導路を理解できる。
③脳神経、脊髄神経、自律神経系の構造と機能を理解できる。

授業回数	授業内容
第1回	神経系の全体像と大脳の構造
第2回	ニューロンとグリア細胞／膜電位とシナプス伝達
第3回	脊髄の構造と機能
第4回	脳幹の構造と機能
第5回	間脳の構造と機能
第6回	小脳の構造と機能／大脳辺縁系・大脳基底核の構造と機能
第7回	大脳皮質の構造と機能（前頭葉・後頭葉）
第8回	大脳皮質の構造と機能（側頭葉・頭頂葉）
第９回	伝導路（運動）
第10回	運動異常と反射
第11回	伝導路（感覚）
第12回	脳神経の構造と機能（脳神経Ⅰ～Ⅵ）
第13回	脳神経の構造と機能（脳神経Ⅶ～Ⅻ）
第14回	末梢神経の構造と機能
第15回	自律神経系の構造と機能

成績評価基準

筆記試験100%

教科書

尾上尚志ら：病気がみえる　vol7　脳・神経　第2版．メディックメディア，2017

参考書

実務経験に関する内容

急性期や回復期リハのリハビリテーションにおいて言語聴覚療法の臨床経験を持つ教員が、神経系の構造・機能等に関する基礎知識についての教授する。

授業科目名	音声学			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト　ユキエ 山本　有紀恵
開講学年	1年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	3	時間数	45

授業概要

音声に関する基礎的な知識を学習する。

GIO（一般目標）

普段何気なく使用している「声」について、なるべく楽しんで学んでいただきたいと思います。

SBO（行動目標）

授業回数	授業内容	授業回数	授業内容
第1回	音声学とは	第16回	音素配列
第2回	音の構造①	第17回	調音結合
第3回	音の構造②	第18回	超分節的要素とは
第4回	発声発語器官の動き①	第19回	アクセント
第5回	発声発語器官の動き②	第20回	イントネーション
第6回	構音動作①	第21回	リズム
第7回	構音動作②	第22回	日本語の音声①
第8回	構音動作③	第23回	日本語の音声②
第9回	構音動作④		
第10回	構音動作⑤		
第11回	国際音声記号		
第12回	音声記号①		
第13回	音声記号②		
第14回	音声記号③		
第15回	音声記号④		

成績評価基準

筆記試験70%
授業態度30%

教科書

今泉　敏　編集：言語聴覚士のための基礎知識　音声学・言語学 第2版．医学書院，2020

参考書

実務経験に関する内容

医療福祉の分野で専任言語聴覚士として勤務している講師が、音声に関する基礎的な知識について教育する。

授業科目名	言語発達学			(フリガナ) 担当教員名	糸原（イトハラ）　弘承（ヒロツグ）
開講学年	1年	開講学期	後期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

人間のことばの獲得や発達にフォーカスして、言語発達を説明する理論、前言語期の発達、１～２歳の言語発達、幼児期の言語発達、学童期の言語発達ごとにお伝えします。

GIO（一般目標）

人間のことばの獲得や発達の理解を目指します。

SBO（行動目標）

言語発達学に関する基本的な事項を理解し、説明できることです。

授業回数	授業内容
第1回	言語発達を説明する理論：生得説、学習説、認知説、社会・相互交渉説①
第2回	言語発達を説明する理論：生得説、学習説、認知説、社会・相互交渉説②
第3回	前言語期の発達１：コミュニケーション行動の発達①
第4回	前言語期の発達１：コミュニケーション行動の発達②
第5回	前言語期の発達２：発声行動・言語音知覚の発達、認知機能の発達①
第6回	前言語期の発達２：発声行動・言語音知覚の発達、認知機能の発達②
第7回	前言語期の発達２：発声行動・言語音知覚の発達、認知機能の発達③
第8回	１～２歳の言語発達１：初語の出現・語彙の増加、言語発達を促す大人の関わり①
第9回	１～２歳の言語発達１：初語の出現・語彙の増加、言語発達を促す大人の関わり②
第10回	幼児期の言語発達１：語彙・構文の発達、談話能力の発達①
第11回	幼児期の言語発達１：語彙・構文の発達、談話能力の発達②
第12回	幼児期の言語発達２：音韻意識の発達①
第13回	幼児期の言語発達２：音韻意識の発達②
第14回	学童期の言語発達：読み書き能力の発達、語彙・構文の発達、談話能力の発達①
第15回	学童期の言語発達：読み書き能力の発達、語彙・構文の発達、談話能力の発達②

成績評価基準

期末試験 100%

教科書

教科書は指定しません。講義は配布するレジュメで行います。

参考書

・岩立志津夫他(編集)、２０１７、よくわかる言語発達［改訂新版］、ミネルヴァ書房
・秦野悦子他 (編集)、２０１７、言語発達とその支援、ミネルヴァ書房

実務経験に関する内容

言語聴覚士、公認心理師、特別支援教育士として様々なことばの発達の相談を受けてきた経験を踏まえ、人間のことばの獲得や発達を概観します。

授業科目名	リハビリテーション概論			(フリガナ) 担当教員名	イシカワ シンジ イシハラ ナオキ クリバヤシ カズキ 石川 慎二・石原 直樹・栗林 一樹
開講学年	1年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

リハビリテーションの理念(自立支援･就労支援等含む)、社会保障論、地域包括ケアシステムの理解と、それに関するセラピストの役割や他職種連携について理解する。

GIO（一般目標）

リハビリテーションの言葉の意味を理解するとともに、臨床の場での実践的なリハビリテーションを理解すること。

SBO（行動目標）

1．リハビリテーションとは何かを理解する
2．日本における社会保障制度について理解する
3．地域包括ケアシステムの理解と他職種連携(チームアプローチ)について理解する
4．地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を培う

授業回数	授業内容	
第1回	リハビリテーションの理念と定義の理解（石川）	
第2回	理学療法とは(石原)	
第3回	言語聴覚療法とは(栗林)	
第4回	作業療法とは	(石川)
第5回	健康と障害の概念と分類の理解(ICIDH と ICF)	
第6回	障害の心理的・社会的視点の理解	
第7回	リハビリテーションの過程の理解	
第8回	リハビリテーションの諸段階の理解	
第9回	多職種連携(チームアプローチ)の理解	
第10回	リハビリテーションとの関連の深い関連職種の理解	
第11回	ADL,QOLの概念と評価法の理解	
第12回	地域リハビリテーションと社会資源、在宅ケアの理解	
第13回	リハビリテーションを支える医療・社会保障制度の理解	
第14回	医療・社会保障制度、関連法規の理解	
第15回	医の倫理、各専門職における倫理規定	

成績評価基準

筆記100%

教科書

上好 昭孝,土肥 信之 編著：医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第3版;永井書店

参考書

実務経験に関する内容

石川：医療機関で実践経験のある作業療法士が、リハビリテーションの基本的内容を講義する。
石原：維持期に臨床経験のある理学療法士が、理学療法士の役割等について教示する。
栗林：急性期や回復期リハ、生活期リハ等において言語聴覚療法の臨床経験を持つ教員が講義する。

授業科目名	言語聴覚障害学概論			(フリガナ) 担当教員名	青木(アオキ) 耕(コウ)・本多(ホンダ) 真奈美(マナミ)・平川(ヒラカワ) 智恵子(チエコ)・糸原(イトハラ) 弘承(ヒロツグ)
開講学年	1年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	60

授業概要

言語聴覚に関する様々な障害について学ぶ。

GIO（一般目標）

言語聴覚障害の基礎概念と知識を習得する。

SBO（行動目標）

①言語聴覚障害の定義が説明できる。
②言語聴覚障害の種類の概略を説明できる。
③言語聴覚障害の原因・疫学・主要症状を説明できる。

授業回数	授業内容
第1回	どのような言語聴覚士を目指すか（本多）
第2回	フリートークの役割（本多）
第3回	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション
第4回	言語によるコミュニケーションの過程と言語聴覚障害（本多）
第5回	言語聴覚士の歴史・概要（平川）
第6回	言語聴覚士の職域（平川）
第7回	言語聴覚士の仕事[小児施設]（平川）
第8回	言語聴覚士の仕事[総合病院]（平川）
第9回	運動障害性構音障害（平川）
第10回	器質性構音障害（平川）
第11回	機能性構音障害（平川）
第12回	音声障害（平川）
第13回	聴覚障害（平川）
第14回	吃音（糸原）
第15回	発達障害（糸原）
第16回	限局性学習障害（本多）
第17回	知的能力障害（本多）
第18回	自閉症スペクトラム障害（本多）
第19回	注意欠如・多動性障害（本多）
第20回	特異的言語発達障害（本多）
第21回	脳性麻痺（本多）
第22回	高次脳機能障害①（青木）
第23回	高次脳機能障害②（青木）
第24回	失語症①（平川）
第25回	失語症②（平川）
第26回	失語症③（平川）
第27回	失語症者との交流（平川）
第28回	標準失語症検査[SLTA]（本多）
第29回	標準失語症検査[SLTA]（本多）
第30回	拡大・代替コミュニケーション[AAC](平川)

成績評価基準

筆記試験100%

教科書

藤田郁代：標準言語聴覚障害学　言語聴覚障害学概論　第2版．医学書院，２０１９．

参考書

配布資料

実務経験に関する内容

急性期・回復期・生活期の施設や小児施設、訪問リハビリテーション等で、言語聴覚士として臨床経験を持つ教員が言語聴覚療法に関する基礎知識、評価診断、訓練についての講義を行う。

授業科目名	手話Ⅰ			(フリガナ) 担当教員名	カネイ コ ナシキ 金井 とみ子・梨木 さやか
開講学年	1年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	2	時間数	60

授業概要

手話で日常会話を行うに必要な手話語彙及び表見技術を習得する。
また、ろう者の生活や歴史・背景についての理解を深める。

GIO（一般目標）

手話で日常的会話を行うための語彙や文法を身につけ、自分の言いたいことを表現し、または相手の表現を読みとることができる。

SBO（行動目標）

・概ね500～800語の単語表現を身につける。
・家族・趣味・仕事など身の回りのできごとについて話すた表現技術を身につける。

授業回数	授業内容	授業回数	授業内容
第1回	伝えあってみましょう	第16回	前期の復習
第2回	名前を紹介しましょう	第17回	病院のことを話しましょう
第3回	家族を紹介しましょう	第18回	学校のことを話しましょう
第4回	数を使って話しましょう	第19回	職場のことを話しましょう
第5回	趣味について話しましょう	第20回	具体的表現①
第6回	仕事について話しましょう	第21回	具体的表現②
第7回	住所を紹介しましょう	第22回	具体的表現③
第8回	１～8のまとめ	第23回	具体的表現まとめ
第9回	一日のことを話しましょう	第24回	主語の明確化①
第10回	一ヶ月のことを話しましょう	第25回	主語の明確化②
第11回	一年のことを話しましょう	第26回	主語の明確化③
第12回	パーティーのことを話しましょう	第27回	主語の明確化④
第13回	旅行のことを話しましょう	第28回	主語の明確化　まとめ
第14回	前期のまとめ・講義「手話の基礎知識」	第29回	後期のまとめ・講義「聴覚障害者の生活」
第15回	試験	第30回	試験

成績評価基準

定期試験＜筆記・実技＞

教科書

手話を学ぼう 手話で話そう＜全国手話研修センター＞

参考書

わたしたちの手話学習辞典Ⅰ ＜全日本ろうあ連盟＞

実務経験に関する内容

手話通訳士らにより、手話で日常会話を行うのに必要な手話語彙および表見技術について教育を行う。

授業科目名	嚥下障害概論			(フリガナ) 担当教員名	ヒラカワ　チエコ 平川　智恵子
開講学年	1年	開講学期	通年	必修／選択	選択
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

摂食嚥下障害に関する基礎知識について学ぶ。

GIO（一般目標）

摂食嚥下障害の基礎概念と知識を習得する。

SBO（行動目標）

①摂食嚥下障害のメカニズムが説明できる。
②摂食嚥下障害の原因疾患と病態を説明できる。
③摂食嚥下障害の評価法と訓練法を学び、言語聴覚士の役割を理解する。

授業回数	授業内容
第1回	摂食嚥下障害とは
第2回	摂食嚥下のメカニズム　①5期モデル
第3回	摂食嚥下のメカニズム　②プロセスモデル
第4回	摂食嚥下器官の解剖
第5回	嚥下の神経制御
第6回	摂食嚥下機能の発達と成熟①
第7回	摂食嚥下機能の発達と成熟②
第8回	摂食嚥下機能の加齢変化
第9回	摂食嚥下障害発症のメカニズム
第10回	摂食嚥下障害の検査・評価　①臨床評価、スクリーニングテスト
第11回	摂食嚥下障害の検査・評価　②嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査など
第12回	間接訓練と直接訓練①
第13回	間接訓練と直接訓練②
第14回	訓練実施上の留意点
第15回	言語聴覚士の役割とチームアプローチ

成績評価基準

筆記試験100%

教科書

藤田郁代・北　義子・阿部晶子　編：標準言語聴覚障害学　言語聴覚障害学概論　第2版．医学書院，2019

参考書

実務経験に関する内容

急性期や回復期リハ、訪問リハ等において言語聴覚療法の臨床経験を持つ教員が、摂食嚥下障害に関する基礎知識、評価診断、訓練についての講義を行う。

授業科目名	ゼミナール			(フリガナ) 担当教員名	アオキ　コウ 青木　耕
開講学年	1年	開講学期	通年	必修／選択	選択
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

自分の興味を持つ分野の研究を実施する。

GIO（一般目標）

言語聴覚障害研究の基本的知識・技能を習得する。

SBO（行動目標）

①テーマを見つけ、研究計画書を立案できる。
②正確にデータを取り、研究報告書を作成できる。

授業回数	授業内容
第1回	研究法とは何か
第2回	研究テーマを決める(分野の決定)
第3回	研究テーマを決める（具体的テーマの検討）
第4回	研究テーマを決める(テーマの決定)
第5回	研究テーマに関する先行研究の調査
第6回	研究計画を立てる
第7回	研究計画報告会
第8回	研究計画報告会
第9回	データ収集（1年生）
第10回	データ収集（2年生）
第11回	データ収集（その他）
第12回	データの集計
第13回	研究報告書の作成
第14回	研究結果報告会
第15回	研究結果報告会

成績評価基準

研究報告書40%、研究報告会60%

教科書

参考書

実務経験に関する内容

大学院にて研究経験のある教員が研究の基礎、データの収集方法を教授する。

２年次

開講科目

授業科目名	保健体育（講義）			（フリガナ） 担当教員名	クリバヤシ　カズキ 栗林　一樹
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業概要

言語聴覚療法対象者に必要な身体介助について学ぶ。

GIO（一般目標）

言語聴覚士として必要な身体介助の基本的な技術を理解し習得する。
認知症についての知識、介助方法についての知識を深める。

SBO（行動目標）

片麻痺患者の動きを理解する。
車椅子、移乗、歩行の介助技術を理解し習得する。
認知症について正しく理解する。

授業回数	授業内容
第1回	動作介助（起き上がり・立ち上がり）①
第2回	動作介助（車椅子への移乗）②
第3回	動作介助（車椅子への移乗）③
第4回	動作介助（車椅子操作）④
第5回	認知症サポーター養成講座①
第6回	認知症サポーター養成講座②
第7回	福祉用具の体験①
第8回	福祉用具の体験②

成績評価基準

出席・講義態度　50%
レポート　50%

教科書

配布資料

参考書

実務経験に関する内容

急性期や回復期リハ、訪問リハ等において臨床経験を持つ教員が、言語聴覚療法対象者に必要な身体介助についての講義、演習を行う。

授業科目名	専門英語			(フリガナ) 担当教員名	アオキ　コウ 青木　耕
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

医学英語や略語を学び、最終的には英語論文の翻訳を行う。

GIO（一般目標）

臨床で必要となる医学英語や略語を習得する。

SBO（行動目標）

①カルテや報告書に書かれた医学英単語や略語を理解できる。
②英語論文を翻訳することができる。

授業回数	授業内容
第1回	医学英語（職種等）
第2回	医学英語（全身）
第3回	医学英語（内臓系）
第4回	医学英語（神経系）
第5回	医学英語（耳鼻咽喉科系）
第6回	医学英語（各種検査）
第7回	医学英語（言語聴覚障害）
第8回	略語（A~）
第9回	略語②（J~)
第10回	略語③(R~)
第11回	英語論文の和訳の方法
第12回	英語論文の和訳（一般英文）
第13回	英語論文の和訳（一般英文　高難易度）
第14回	英語論文の和訳（医学論文）
第15回	英語論文の和訳（医学論文　高難易度）

成績評価基準

前期：筆記試験100%
後期：レポート100%

教科書

配布資料のみ

参考書

実務経験に関する内容

病院にて医学英語を使用し、大学院にて英語論文の翻訳経験がある教員が講義を行う。

授業科目名	病理学			(フリガナ) 担当教員名	オオ ハラ ヒロ キ 大原　浩貴
開講学年	2年	開講学期	前期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業概要

病理学総論を通じて、病気の原因やなりたちを学ぶ。

GIO（一般目標）

解剖・生理と併せ、基本的な病気のなりたちを理解する。

SBO（行動目標）

細胞・組織の障害、循環障害、炎症、感染症、遺伝子異常など臓器の違いを問わない病因について理解し、説明できる。

授業回数	授業内容
第1回	病理学で学ぶこと，細胞・組織の障害と修復
第2回	循環障害(1)
第3回	循環障害(2)
第4回	炎症と免疫
第5回	感染症
第6回	代謝障害
第7回	先天異常と遺伝子異常
第8回	腫瘍

成績評価基準

試験　100%

教科書

大橋健一ら：系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進[1] 第5版　医学書院

参考書

坂井建雄/岡田隆夫：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能[1] 第10版　医学書院

実務経験に関する内容

病理学講座病態病理学講師により、病理学総論を通じて、病気の原因やなりたちについて教育する。

授業科目名	内科学			(フリガナ) 担当教員名	長坂 行博 澄川 学・井上 貴雄・高瀬 裕史・青木 耕
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60

授業概要

予防医学的観点から、リハビリテーション医療、さらに従事する方々の健康生活に寄与し得る医学的知識を共に学ぶ。（長坂）

GIO（一般目標）

疾病および障害の理解（井上）

SBO（行動目標）

基本的な内科疾患およびその治療方法について説明できる。

授業回数	授業内容	
第1回	生命誕生の奇跡　～生命を守るシステム　自律神経	担当： 長坂先生
第2回	生命誕生の奇跡　～生命を守るシステム　免疫系	
第3回	栄養学の基礎　～3大栄養素等	
第4回	栄養学の基礎　～ビタミン、ミネラル、ファイトケミカル等	
第5回	脳、神経系	
第6回	認知症について	
第7回	心臓、腎臓	
第8回	ストレスの本質と対応	
第9回	ガン、悪性腫瘍について	
第10回	現代病としての糖尿病について	
第11回	食習慣と各種疾患について	
第12回	食事と運動と健やかな老後	
第13回	肝・胆・膵　総論：解剖･生理・生化学	担当： 澄川先生
第14回	肝炎・肝硬変・肝癌・	担当： 澄川先生
第15回	胆石・胆道癌　：急性・慢性膵炎・膵癌	担当： 澄川先生
第16回	病態と治療	担当： 澄川先生
第17回	アレルギー疾患と免疫	担当： 井上先生
第18回	膠原病総論	担当： 井上先生
第19回	膠原病各論	担当： 井上先生
第20回	糖尿病	担当： 高瀬先生
第21回	B型肝炎	担当： 青木先生
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		
第26回		
第27回		
第28回		
第29回		
第30回		

成績評価基準

ペーパーテスト：長坂

教科書

上記内容のレジュメを配布し、テキストとさせていただきます。（長坂）
伊東進、森博愛 編著：メディカルスタッフのための内科学 第4版； 医学出版社
資料を提出、講義中に利用（澄川）

参考書

実務経験に関する内容

本科目はオムニバスである。各専門分野の認定医資格（内科、循環器、消化器、産業、外科等）をもつ医師が、日々の臨床業務に携わるなか、様々な知見や模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。

授業科目名	老年学			(フリガナ) 担当教員名	マツイ リュウキチ ナカガワ トモノリ 松井 龍吉・中川 知憲
開講学年	2年	開講学期	後期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業概要

GIO（一般目標）

SBO（行動目標）

授業回数	授業内容
第1回	加齢に伴う変化：生理機能
第2回	加齢に伴う変化：運動・精神機能
第3回	老年症候群
第4回	循環器疾患・呼吸疾患
第5回	神経・精神疾患
第6回	骨・運動器疾患
第7回	消化器・内分泌疾患
第8回	腎・泌尿器疾患

成績評価基準

筆記試験（100%）

教科書

佐々木　英忠・鳥羽　研二・荒井　啓行 著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護　病態・疾患論，医学書院

参考書

実務経験に関する内容

本科目はオムニバスである。各専門分野の認定医資格（認知症、脳卒中、産業）をもつ医師が、日々の臨床業務に携わるなか、様々な知見や模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。

授業科目名	神経内科学			(フリガナ) 担当教員名	マツイ リュウキチ ナカガワ トモノリ 松井 龍吉・中川 知憲
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

GIO（一般目標）

SBO（行動目標）

①神経疾患観察のための解剖学的・生理学的基礎知識を修得する。
②主な神経疾患の診察方法や検査方法を学ぶ。

授業回数	授業内容
第1回	感染性疾患
第2回	ＣＶＤ（脳血管障害）
第3回	ＣＶＤ（脳血管障害）
第4回	ＣＶＤ（脳血管障害）
第5回	中枢神経系の解剖と機能
第6回	神経学的診断と評価
第7回	神経学的検査法
第8回	意識障害、脳死、植物状態　　頭痛、めまい、失神
第9回	末梢神経障害
第10回	認知症
第11回	変性疾患・脱髄疾患、錐体外路の変性疾患
第12回	筋疾患
第13回	脳神経外科領域の疾患
第14回	脳腫瘍
第15回	外傷性脳損傷

成績評価基準

テスト

教科書

川平　和美編著：標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　神経内科学　第5版．医学書院，2009

参考書

実務経験に関する内容

本科目はオムニバスである。各専門分野の認定医資格（認知症、脳卒中、産業）をもつ医師が、日々の臨床業務に携わるなか、様々な知見や模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。

授業科目名	小児科学			(フリガナ) 担当教員名	ナカ シマ マサ ヒロ アンドウ ユキ ノリ 中島 匡博・安藤 幸典
開講学年	2年	開講学期	後期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業概要

小児は心身共に成長・発達過程にあり、社会の影響を大きく受けます。子どもを取り巻く環境にも関心を持つことを期待しています。

GIO（一般目標）

小児科学の成長・発達など、基礎的な事項を理解する。

SBO（行動目標）

授業回数	授業内容	
第1回	小児科学概論	担当： 中島先生
第2回	小児科学的症候・診断・治療	担当： 中島先生
第3回	免疫・アレルギー疾患	担当： 中島先生
第4回	子どもとメディア	担当： 中島先生
第5回	新生児・未熟児疾患・先天異常	担当： 安藤先生
第6回	神経疾患・筋疾患	担当： 安藤先生
第7回	小児の発育・発達	担当： 安藤先生
第8回	循環器・呼吸器・感染症	担当： 安藤先生

成績評価基準

筆記試験

教科書

冨田豊 著、奈良勲・鎌倉矩子 監修：標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　小児科学第5版　医学書院

参考書

実務経験に関する内容

本科目はオムニバスである。小児科専門医が、日々の臨床業務に携わるなか、様々な知見や模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。

授業科目名	精神医学			(フリガナ) 担当教員名	イシカワ　シンジ 石川　慎二
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

精神医学の基本的概要について、講義を中心に進行していきます。

GIO（一般目標）

精神医学の基本的概要について修得する。

SBO（行動目標）

1．疾患論を通じ、疾患の説明ができる。
2．精神障害の治療･リハビリテーションについて説明できる。
3．精神医学に関連する課題や、医療・保健・福祉に関する状況と制度面について説明できる。

授業回数	授業内容
第1回	精神医学の歴史及び精神障害の成因と分類について理解する
第2回	精神機能の障害と精神症状について理解する
第3回	精神障害の診断と評価について理解する
第4回	認知症の治療・リハビリテーションについて理解する
第5回	薬物依存症の治療・リハビリテーションについて理解する
第6回	統合失調症の治療・リハビリテーションについて理解する
第7回	気分障害の治療・リハビリテーションについて理解する
第8回	神経症性障害の治療・リハビリテーションについて理解する
第9回	成人のパーソナリティ・行動の障害について理解する
第10回	精神遅滞、心理的発達の障害の治療・リハビリテーションについて理解する
第11回	精神障害の治療とリハビリテーション、薬物療法、精神療法について理解する
第12回	リエゾン精神医学及び心身医学について理解する
第13回	ライフサイクルにおける精神医学について理解する
第14回	社会文化とメンタルヘルスについて理解する
第15回	精神医学を取り巻く各種社会保障制度等について理解する。

成績評価基準

筆記試験100%（前期・後期ともに中間試験と期末試験を実施します）

教科書

奈良勲・鎌倉矩子 監修・上野武治 編集：標準理学療法学･作業療法学　専門基礎分野　精神医学　第4版 ； 医学書院

参考書

実務経験に関する内容

精神科医療に携わった経験を持つ作業療法士が、我が国における精神科医療の実際や、精神疾患の特徴、治療・リハビリテーションについて講義を中心に説明する。

授業科目名	リハビリテーション医学 （薬理・栄養含）			（フリガナ） 担当教員名	馬庭 壮吉（マニワ ソウキチ）・青木 耕（アオキ コウ）・中牟田 祐典（ナカムタ ヒロノリ）・山本 健（ヤマモト ケン） 西園 憲郎（ニシゾノ ケンロウ）・永戸 ゆうこ（ナガト）
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60

授業概要

・リハビリテーションの概要について理解し、障害に対するチームアプローチについて学ぶ。（馬庭）
・PT・OT・STで学ぶ疾患の概要を理解し、他職種が行う治療について習得する。
・臨床現場でリハ職にも薬剤の知識が必要であるため基礎的な項目を身につけてもらう（西園）
・リハビリテーションを行う上で必要な栄養学の基礎知識や栄養療法について学ぶ。（永戸）

GIO（一般目標）

・2年生から3年生にかけて学ぶ疾患の基礎となる知識・技術の全体像を習得する。
・患者の服用薬剤をひととおり確認して、薬によって症状が改善されているか確認してリハビリに臨む（西園）
・リハビリテーションにおける栄養の必要性を理解し、栄養に関する知識を修得する。（永戸）

SBO（行動目標）

・各疾患の病態・医師の行う治療法を知り、その疾患に適応するPT・OT・STの治療の基礎を把握する。
・薬剤の知識を身につけることで他職種とのコミュニケーションをとり専門職としての信頼を獲得する（西園）
・栄養学の基礎や栄養療法について説明できる。（永戸）
・健康管理やリハビリテーションにおける栄養の重要性について説明できる。（永戸）

授業回数	授業内容	
第1回	骨関節の外傷・疾患のリハビリテーション	馬庭
第2回	脊髄損傷・二分脊椎	馬庭
第3回	リハビリテーション医学総論	馬庭
第4回	脳血管障害の概念①	青木
第5回	脳血管障害の概念②	青木
第6回	脳血管障害のリハビリテーション①	青木
第7回	脳血管障害のリハビリテーション②	青木
第8回	内部障害　循環器疾患とリハビリテーション	中牟田
第9回	内部障害　呼吸器疾患とリハビリテーション	中牟田
第10回	内部障害（糖尿病、高脂血症等）の疾患概念	中牟田
第11回	内部障害（糖尿病、高脂血症等）のリハビリテーション	中牟田
第12回	関節リウマチと膠原病の疾患概念	山本健
第13回	関節リウマチのリハビリテーション	山本健
第14回	神経筋疾患のリハビリテーション（ALS、SCDなど）	山本健
第15回	神経筋疾患のリハビリテーション（PD、GBなど）	山本健
第16回	なぜリハ職が薬剤について知らなければならないのか	西園
第17回	第1章　整形外科疾患に使用される薬剤	西園
第18回	第2章　脳神経疾患に使用される薬剤	西園
第19回	〃　　〃	西園
第20回	第3章　呼吸・循環・消化器・代謝疾患に使用される薬剤	西園
第21回	第4章　生活習慣病に使用される薬剤	西園
第22回	第5章　高齢者に使用される薬剤についての注意点	西園
第23回	第6章　緩和・精神心理に使用される薬剤	西園
第24回	リハビリテーションに役立つ薬の知識の総まとめ	西園
第25回	リハビリテーションにおける栄養知識の重要性	永戸
第26回	栄養素の役割と食事摂取基準	永戸
第27回	ライフステージ別の栄養①	永戸
第28回	ライフステージ別の栄養②	永戸
第29回	疾患別の栄養療法①	永戸
第30回	疾患別の栄養療法②	永戸

成績評価基準

定期試験100%

教科書

三上真弘 監修，出江紳一・加賀谷斉 編集：リハビリテーション医学テキスト　改訂第4版．南江堂，2016（馬庭）
藤原俊之 監修，高橋哲也 編集：リスクに備えて臨床に活かす　理学療法にすぐに役立つ薬の知識．医学書院（西園）
配布資料（永戸）

参考書

実務経験に関する内容

本科目はオムニバスである。日本リハビリテーション医学会専門医による整形外科疾患に関する講義、薬剤師および管理栄養士によるリハビリテーションに関連する薬剤や栄養について実践的な教育を行う。

授業科目名	耳鼻咽喉科学			(フリガナ) 担当教員名	フジワラ カズノリ 藤原 和典 ヤザマ ヒロアキ 矢間 敬章
開講学年	2年	開講学期	後期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

耳鼻咽喉科学の基本的事項を理解する。

GIO（一般目標）

耳鼻咽喉科学および関連疾患に関する基本的概念と知識を習得する。

SBO（行動目標）

①各構造（耳、鼻、咽頭、喉頭、気管、食道、その他）を説明できる。
②関連疾患を説明できる。
③聴覚障害及びめまいの種類と特徴について説明できる。
④検査の種類と特徴を説明できる。

授業回数	授業内容	
第1回	耳科学（外耳・中耳疾患）	矢間先生
第2回	耳科学（内耳疾患、顔面神経疾患）	矢間先生
第3回	耳科学（耳科手術、前庭・平衡系の検査）	矢間先生
第4回	耳科学（めまい疾患）	矢間先生
第5回	咽頭科学（咽頭疾患、嚥下）	藤原先生
第6回	頭頸部腫瘍学（良性・悪性腫瘍）	藤原先生
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

成績評価基準

定期試験　100%

教科書

鳥山聡　編：言語聴覚士のための基礎知識　耳鼻咽喉科学　第2版．医学書院,2011.

参考書

高橋茂樹　著：STEP耳鼻咽喉科第3版．海馬書房，2013.

実務経験に関する内容

各専門領域において、診療・教育・研究に携わっている鳥取大学医学部付属病院の医師が、事例を紹介しながら講義を行う。

授業科目名	救命医学			(フリガナ) 担当教員名	フルタ　ショウタ 古田　翔太
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義・実習	単位数	2	時間数	30

授業概要

高度化する医療ニーズに対応するためAEDの使用や人工呼吸等の基礎知識、技術を学ぶ。

GIO（一般目標）

安全管理学、救急医療学を学ぶことでリスク管理を徹底できるようになる。
上級救命講習終了証を取得する。

SBO（行動目標）

①手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動などを習得できる。
②臨床実習に必要となる安全管理や組織連携に関する基本的知識を習得できる。

授業回数	授業内容	授業回数	授業内容
第1回	救命医学安全管理学総論	第９回	安全管理学総論
第2回	救命医学安全管理学総論	第10回	感染症に対する安全管理
第3回	一次救命処置	第11回	転倒予防、医療機器の安全管理
第4回	救命技術（外部）	第12回	安全管理を高める連携と教育
第5回	救命技術（外部）	第13回	急性期・周術期の循環・代謝動態
第6回	救命技術（外部）	第14回	ICU・高度急性期リハビリテーション
第7回	救命技術（外部）	第15回	在宅での安全管理と救急時の対応
第8回	救命技術（外部）		

成績評価基準

前期　レポート100%
後期　定期試験100%

教科書

内山　靖・藤井浩美・立石雅子　編：リハベーシック　安全管理学・救急医療学，医歯薬出版株式会社．2021

参考書

実務経験に関する内容

救急救命士による救命講習（座学・実技）を行い、保健・医療・福祉の現場における実践的な教育を行う。
急性期病院において作業療法の実践を行ってきた教員が、その経験を生かし、救命医学について講義、演習を行う。

授業科目名	形成外科学			(フリガナ) 担当教員名	ハヤシダ ケンジ スダ ショウタ 林田　健志・須田　翔太
開講学年	2年	開講学期	後期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業概要

形成外科の一般的知識の習得、並びに言語聴覚障害に関連が深い唇裂・口蓋裂においては症状・手術方法・言語治療について概説する。

GIO（一般目標）

言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修するうえで基礎となる人体のしくみ・疾病と治療に関する知識・技能・態度を修得する。

SBO（行動目標）

①形成外科が対象とする疾患を説明できる。
②唇裂・口蓋裂の症状・手術方法・言語療法について理解し説明できる。

授業回数	授業内容
第1回	形成外科総論
第2回	瘢痕・ケロイド・皮膚腫瘍
第3回	悪性腫瘍の再建
第4回	熱傷・褥瘡・皮膚潰瘍
第5回	唇裂・口蓋裂・鼻咽腔閉鎖不全の治療①
第6回	唇裂・口蓋裂・鼻咽腔閉鎖不全の治療②
第7回	顔面の先天異常・外傷①
第8回	まとめ

成績評価基準

筆記試験100%

教科書

監修 鬼塚卓彌，編集 秦維郎　野崎幹弘 ：「標準形成外科学」．医学書院

参考書

実務経験に関する内容

本科目はオムニバスである。各専門分野の専門・認定医（耳鼻咽喉科、癌治療、頭頸部癌、日本内分泌外科、日本超音波医学会認定超音波等）をもつ医師が、日々の臨床業務に携わるなか、様々な知見や模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。

授業科目名	臨床歯科口腔外科学			(フリガナ) 担当教員名	ヨシムラ ヤスロウ ミシマ コウイチ 吉村 安郎・三島 宏一
開講学年	2年	開講学期	前期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

歯科医学および口腔外科学に関する基礎・臨床知識について学ぶ。

GIO（一般目標）

臨床歯科医学・口腔外科学について、言語聴覚士に必要な知識を習得する。

SBO（行動目標）

①臨床歯科・口腔外科学関連の基本構造と機能について説明できる。
②基本的な関連諸検査について説明できる。
③臨床歯科・口腔外科学の病態、診断と治療について説明できる。

授業回数	授業内容
第1回	臨床歯科医学・口腔外科学概論
第2回	歯・顎・口腔・顔面の発生・発育と構造・機能（顎関節・唾液腺の構造と機能を含む）①
第3回	歯・顎・口腔・顔面の発生・発育と構造・機能（顎関節・唾液腺の構造と機能を含む）②
第4回	全身疾患と歯科口腔外科、加齢現象による口腔機能障害の予防とその治療
第5回	口腔・顎・顔面の各論：炎症・外傷
第6回	口腔・顎・顔面の各論：嚢胞・良性腫瘍・神経性疾患
第7回	口腔・顎・顔面の各論：顎関節疾患・唾液腺疾患
第8回	口腔・顎・顔面の各論：口腔の悪性腫瘍
第9回	咀嚼と咀嚼障害
第10回	摂食・咀嚼・嚥下障害と関連のある疾患
第11回	口腔衛生学概論
第12回	口腔・顎・顔面の疾患総論
第13回	口腔・顎・顔面の各論：①発生・発育異常
第14回	口腔・顎・顔面の各論：②唇・顎・口蓋裂、顎変形症
第15回	口腔・顎・顔面の各論：③口蓋裂と言語障害

成績評価基準

筆記試験　100%

教科書

夏目長門：言語聴覚士のための基礎知識　臨床歯科医学・口腔外科学　第2版,医学書院．2021.

参考書

配布資料

実務経験に関する内容

ドイツで顎顔面外科の臨床研修を受け、島根大学医学部付属病院において歯科口腔外科学の診療・教育・研究に携わった医師が事例を紹介しながら講義を行う。

授業科目名	臨床心理学			(フリガナ) 担当教員名	タケダ　ミオ 武田　未央
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

臨床心理学の全体像を体系的に概説し、臨床実践の方法については実習を行う。

GIO（一般目標）

リハビリテーションの臨床において必要な心理的基礎力や対人援助職の基本的姿勢を培う。

SBO（行動目標）

①患者様と信頼関係を築く姿勢を身につけ、模擬的に実施できる。
②患者様の心理状況を理解できるように、心の問題に関する基礎的内容を説明できる。
③各々の検査法について理解し、目的や特徴などの説明ができる。

授業回数	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	臨床心理学とは何か：歴史と構造
第3回	問題を理解する（アセスメント）（1）目的と方法
第4回	問題を理解する（アセスメント）（2）データの収集技法①
第5回	問題を理解する（アセスメント）（2）データの収集技法②
第6回	問題を理解する（アセスメント）（2）データの収集技法③
第7回	問題を理解する（アセスメント）（2）データの収集技法④
第8回	問題を理解する（アセスメント）（3）異常心理学
第9回	問題を理解する（アセスメント）（4）ライフサイクルと心理的問題
第10回	問題を理解する（アセスメント）（5）発達過程と生じる障害や問題
第11回	問題に介入する（1）理論モデル①
第12回	問題に介入する（1）理論モデル②
第13回	問題に介入する（1）理論モデル③
第14回	問題に介入する（2）介入技法①個人
第15回	問題に介入する（2）介入技法②集団

成績評価基準

評価方法：定期試験（後期）の成績と授業参加状況を総合して評価する。
割合：試験成績と授業参加状況の割合は7：3。
基準：試験は国家試験の過去問を中心とした選択および記述問題において正答率6割以上、
　　授業参加は主体性と積極性が認められること。

教科書

下山晴彦 編，2009「よくわかる臨床心理学　[改定新版]」　ミネルヴァ書房

参考書

下山晴彦・石丸径一郎，2020「公認心理師スタンダードテキストシリーズ③臨床心理学概論」ミネルヴァ書房
野島一彦・岡村達也 編，2018「公認心理師の基礎と実践③臨床心理学概論」遠見書房
倉光修，2020「臨床心理学概論」放送大学教育振興会

実務経験に関する内容

公認心理師、臨床心理士の資格をもつ講師が、医療機関における心理検査や相談に携わるなか、アセスメントの方法や介入に関するモデル等、実践的な教育を行う。

授業科目名	生涯発達心理学			(フリガナ) 担当教員名	糸原（イトハラ）　弘承（ヒロツグ）
開講学年	2年	開講学期	前期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

人間の心理的発達を生涯にわたって概観します。

GIO（一般目標）

様々な年代を対象とする言語聴覚士として、各ライフステージの特徴を理解することです。

SBO（行動目標）

生涯発達心理学に関する基本的な事項を理解し、説明できることです。

授業回数	授業内容
第1回	発達の概念１：発達の規定要因
第2回	発達の概念２：発達研究法
第3回	発達の概念３：発達理論
第4回	新生児期・乳児期１：知覚・認知の発達（測定法など）
第5回	新生児期・乳児期１２：運動の発達
第6回	新生児期・乳児期１３：愛着の発達
第7回	幼児期・児童期１：遊びと認知機能の発達
第8回	幼児期・児童期２：自己・他者認知の発達と仲間関係
第9回	幼児期・児童期３：保育・学校教育と発達
第10回	青年期１：親子関係・友人関係
第11回	青年期２：自我同一性の確立
第12回	青年期３：知的機能の発達
第13回	成人期・老年期１：職業生活、家族生活
第14回	成人期・老年期２：加齢、知的機能
第15回	成人期・老年期３：死への対応

成績評価基準

期末試験 100%

教科書

教科書は指定しません。講義は配布するレジュメで行います。

参考書

・山田弘幸(編集)、２０２０、言語聴覚士のための 心理学 第２版、医歯薬出版
・高橋、中川（著・編集)、２０１４、生涯発達心理学１５講、北大路書房

実務経験に関する内容

言語聴覚士、公認心理師として様々な年代の方に接してきた経験を踏まえ、人間の生涯にわたる心理的発達を概観します。

授業科目名	学習・認知心理学			(フリガナ) 担当教員名	糸原（イトハラ）　弘承（ヒロツグ）
開講学年	2年	開講学期	後期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

人間がどのように外界を捉え、行動するのかの理解を感覚、知覚・認知、学習、記憶、思考・知識、言語、対人認知の領域ごと、日常体験する現象とリンクさせてお伝えします。

GIO（一般目標）

人間がどのように外界を捉え、行動するのかの理解を目指します。

SBO（行動目標）

学習・認知心理学に関する基本的な事項を理解し、説明できることです。

授業回数	授業内容
第1回	A　感覚１：感覚の種類、感覚可能範囲と感度、物理量と心理量
第2回	A　感覚２：感覚内の次元、順応と対比・同化、感覚遮断
第3回	B　知覚・認知１：色彩知覚、空間知覚、形態知覚
第4回	B　知覚・認知２：運動知覚、知覚の恒常性、知覚の統合・相互作用
第5回	B　知覚・認知３：知覚運動協応、注意、オブジェクト認知、認知地図
第6回	C　学習１：古典的条件づけ、オペラント条件づけ、弁別学習、技能学習
第7回	C　学習２：社会的学習、学習の転移、動機づけ、要求水準、学習性無力感
第8回	D　記憶１：記憶過程、記憶の分類
第9回	D　記憶２：記憶範囲・記憶容量、忘却
第10回	E　思考・知識１：概念、問題解決、推論
第11回	E　思考・知識２：認知の偏り、表象、知識の構造
第12回	F　言語１：非言語的・前言語的コミュニケーション、象徴・記号・言語
第13回	F　言語２：言語使用と知識、言語理解と産出
第14回	G　対人認知１：印象形成、対人魅力
第15回	G　対人認知２：ステレオタイプ、認知的不協和

成績評価基準

期末試験100%

教科書

教科書は指定しません。講義は配布するレジュメで行います。

参考書

・山田弘幸(編集)、２０２０、言語聴覚士のための 心理学 第２版、医歯薬出版
・鹿取廣人他（著・編集)、２０２０、心理学　第５版補訂版、東京大学出版会

実務経験に関する内容

言語聴覚士、公認心理師、認定心理士、心理学検定１級として様々な心理学的な知見に接してきた経験を踏まえ、人間の学習・認知面にわたる心理学的知見を概観します。

授業科目名	検査法Ⅰ			(フリガナ) 担当教員名	ホンダ マナミ ヒラカワ チエコ 本多 真奈美・平川 智恵子
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	実技	単位数	2	時間数	30

授業概要

言語聴覚領域で言語聴覚士が実施する検査の目的・方法・結果の解釈を学ぶ。

GIO（一般目標）

言語聴覚療法において臨床で実施する専門的な評価診断の技能を修得する。

SBO（行動目標）

①検査の目的を理解し説明できる。
②検査の手続きを正確に実施できる。
③検査結果を分析できる。

授業回数	授業内容	
第1回	国リハ式 ＜Ｓ－Ｓ法＞言語発達遅滞検査　検査の概要・単語検査	本多
第2回	国リハ式 ＜Ｓ－Ｓ法＞言語発達遅滞検査　単語検査	本多
第3回	国リハ式 ＜Ｓ－Ｓ法＞言語発達遅滞検査　単語検査	本多
第4回	国リハ式 ＜Ｓ－Ｓ法＞言語発達遅滞検査　語連鎖検査	本多
第5回	国リハ式 ＜Ｓ－Ｓ法＞言語発達遅滞検査　語連鎖検査	本多
第6回	国リハ式 ＜Ｓ－Ｓ法＞言語発達遅滞検査　実物・事物はめ板を用いた検査	本多
第7回	国リハ式 ＜Ｓ－Ｓ法＞言語発達遅滞検査　実物・事物はめ板を用いた検査	本多
第8回	国リハ式 ＜Ｓ－Ｓ法＞言語発達遅滞検査　サマリー作成	本多
第9回	標準失語症検査（SLTA）　検査の概要・「聴く」	平川
第10回	標準失語症検査（SLTA）　「話す」・「読む」	平川
第11回	標準失語症検査（SLTA）　「書く」・「計算」	平川
第12回	標準失語症検査（SLTA）　記録・採点の方法	平川
第13回	標準失語症検査（SLTA）　症例演習	平川
第14回	標準失語症検査（SLTA）　症例演習	平川
第15回	標準失語症検査（SLTA）　プロフィール表の作成と分析	平川

成績評価基準

実技試験５０％、演習５０％

教科書

配布資料

参考書

各検査マニュアル

実務経験に関する内容

急性期・回復期・生活期の施設、訪問リハビリテーション、小児の施設において言語聴覚療法の臨床経験を持つ教員が、検査法について講義を行う。

授業科目名	言語学			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト　ユキエ 山本　有紀恵
開講学年	2年	開講学期	前期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

GIO（一般目標）

言語学に関する基礎的な知識を身につける。

SBO（行動目標）

授業回数	授業内容
第1回	言語学とは
第2回	言語学の分野と歴史
第3回	ことばの持つ特徴
第4回	形態論①
第5回	形態論②
第6回	形態論③
第7回	語用論①
第8回	語用論②
第9回	語用論③
第10回	意味論①
第11回	意味論②
第12回	意味論③
第13回	統語論①
第14回	統語論②
第15回	統語論③

成績評価基準

授業態度（30%）
筆記試験（70%）

教科書

今泉　敏　編集：言語聴覚士のための基礎知識　音声学・言語学 第2版．医学書院，2020

参考書

実務経験に関する内容

医療福祉の分野で専任言語聴覚士として勤務している講師が、言語の基礎的な知識（形態論、語用論、意味論等）について教育する。

授業科目名	言語発達学演習			(フリガナ) 担当教員名	ホンダ マナミ 本多　真奈美
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義・演習・実習	単位数	3	時間数	45

授業概要

保育所における実習を通して前言語期・幼児期の言語発達を学修します。事前に評価項目をおさえておくことで子どもの観察点を整理します。また、言語発達に関連する運動面・社会面・コミュニケーションについても学びます。

GIO（一般目標）

典型的な言語発達を理解する。

SBO（行動目標）

①言語面を中心に、社会面、運動面の発達特徴を説明できる。②子どもとコミュニケーションを図り、良好な関係を築くことができる。③発達における観察の視点を身に付け、記録ができる。

授業回数	授業内容	授業回数	授業内容
第1回	保育実習　オリエンテーション	第16回	保育実習報告会
第2回	典型発達　～言語面・運動面・社会面～	第17回	養護学校見学実習　オリエンテーション
第3回	典型発達　～言語面・運動面・社会面～	第18回	養護学校見学実習①
第4回	遠城寺式乳幼児分析的発達検査法　演習	第19回	養護学校見学実習②
第5回	国リハ式〈S-S法〉言語発達遅滞検査　演習	第20回	養護学校見学実習　感想・レポート作成
第6回	質問-応答関係検査　演習	第21回	養護学校見学実習　感想・レポート作成
第7回	検査練習	第22回	教材作製
第8回	保育所実習（1回目）	第23回	支援の実演
第9回	保育所実習（1回目）		
第10回	報告書作成		
第11回	保育実習報告会		
第12回	検査練習		
第13回	保育所実習（2回目）		
第14回	保育所実習（2回目）		
第15回	報告書作成		

成績評価基準

演習・実習　60%　　報告会　20%
レポート　20%

教科書

藤田郁代：標準言語聴覚障害学　言語発達障害学　第３版.医学書院,2021.

参考書

検査マニュアル。１年時に履修した言語発達学を復習した上で受講してください。
石田宏代：言語聴覚士のための言語発達障害学　第2版．医歯薬出版,2016.

実務経験に関する内容

児童発達支援・放課後等デイサービスや養護学校で言語聴覚士としての実務経験があり、浜田市相談支援チームのメンバーとして保育所巡回に従事している教員が、実践的な教育を行う。

授業科目名	失語症Ⅰ			(フリガナ) 担当教員名	ヒラカワ　チエコ 平川　智恵子
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	60

授業概要

失語症の基本的な知識について学ぶ。

GIO（一般目標）

失語症の基本概念と知識を習得する。

SBO（行動目標）

①失語症の定義と原因疾患、特徴的症状を説明できる。
②失語症候群について説明できる。
③失語症の評価・診断を説明できる。

授業回数	授業内容
第1回	失語症の定義、失語症の原因疾患
第2回	失語症の症状　①発話の障害
第3回	失語症の症状　②発話の障害
第4回	失語症の症状　③聴覚的理解の障害
第5回	失語症の症状　④復唱の障害
第6回	失語症の症状　⑤読字の障害
第7回	失語症の症状　⑥書字の障害、数・計算の障害
第8回	失語症の近縁症状
第9回	失語症に随伴しやすい障害
第10回	失語症候群　①ブローカ失語
第11回	失語症候群　②ウェルニッケ失語
第12回	失語症候群　③伝導失語・健忘失語
第13回	失語症候群　④超皮質性失語
第14回	失語症候群　⑤混合型超皮質性失語・全失語
第15回	失語症候群　⑥交叉性失語・皮質下性失語
第16回	言語を支える神経基盤①
第17回	言語を支える神経基盤②
第18回	純粋型　①純粋語聾・発語失行・純粋失読・純粋失書・失読失書など
第19回	純粋型　②純粋語聾・発語失行・純粋失読・純粋失書・失読失書など
第20回	純粋型　③純粋語聾・発語失行・純粋失読・純粋失書・失読失書など
第21回	純粋型　④純粋語聾・発語失行・純粋失読・純粋失書・失読失書など
第22回	失読および失書への認知神経心理学的アプローチ
第23回	原発性進行性失語
第24回	小児失語症
第25回	失語症の評価と診断①
第26回	失語症の評価と診断②
第27回	失語症の症状分析　①会話場面からの評価
第28回	失語症の症状分析　②呼称・復唱からの評価
第29回	失語症の症状分析　③重度失語症者への関わり、失語症の長期的経過
第30回	失語症研究の歴史

成績評価基準

筆記試験100%

教科書

藤田郁代・立石雅子・菅野倫子　編：標準言語聴覚障害学　失語症学　第３版．医学書院，2021

参考書

実務経験に関する内容

急性期や回復期リハ、訪問リハ等において言語聴覚士として高次脳機能障害、失語症の臨床経験を持つ教員が、失語症に関する基礎知識、評価診断についての講義を行う。

授業科目名	言語発達障害Ⅰ			(フリガナ) 担当教員名	本多（ホンダ）　真奈美（マナミ）
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	1	時間数	30

授業概要

言語発達障害のタイプと特徴を学ぶ。

GIO（一般目標）

言語発達障害の概念を理解し、それぞれの言語発達障害の特徴を理解できる。

SBO（行動目標）

①言語発達障害の症状を説明できる。
②言語発達障害の背景要因（原因）や発症メカニズムを説明できる。

授業回数	授業内容
第1回	言語発達障害の概要
第2回	言語発達障害とは（わたし研究）
第3回	自閉症スペクトラム障害（診断基準、原因）
第4回	自閉症スペクトラム障害（特徴）
第5回	注意欠如・多動性障害（診断基準、原因）
第6回	注意欠如・多動性障害（特徴）
第7回	知的能力障害（診断基準、原因）
第8回	知的能力障害（特徴）
第9回	限局性学習障害（診断基準、原因）
第10回	限局性学習障害（発達性読み書き障害）
第11回	特異的言語発達障害
第12回	選択性緘黙
第13回	発達性協調運動障害
第14回	言語発達障害の評価・診断
第15回	代表的な検査

成績評価基準

定期試験　90%　　提出物　10%

教科書

藤田　郁代：標準言語聴覚障害学　言語発達障害学　第３版．医学書院，2021.

参考書

石田宏代：言語聴覚士のための言語発達障害学　第2版．医歯薬出版，2016.
資料を配布します。１年時に履修した言語発達学を復習した上で受講してください。

実務経験に関する内容

児童発達支援・放課後等デイサービスや養護学校で言語聴覚士としての実務経験があり、浜田市相談支援チームのメンバーとして保育所巡回に従事している教員が、実践的な教育を行う。

授業科目名	脳性麻痺			(フリガナ) 担当教員名	ホンダ マナミ タナカ マユミ 本多 真奈美・田中 真由美
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	45

授業概要

脳性麻痺の特徴について学び、言語聴覚領域の評価・支援方法を学ぶ。

GIO（一般目標）

脳性麻痺児の運動・言語・摂食嚥下における知識を修得する。

SBO（行動目標）

①脳性麻痺の定義と病態を説明できる。
②原始反射を中心とした運動発達を説明できる。
③脳性麻痺児の構音・言語発達の特徴を説明できる。
④摂食嚥下の発達・評価・支援について説明できる。

授業回数	授業内容	授業回数	授業内容
第1回	脳性麻痺の定義・原因・タイプ	第16回	脳性麻痺児のコミュニケーション障害
第2回	運動発達	第17回	脳性麻痺児の言語発達障害
第3回	姿勢反射	第18回	脳性麻痺児の発声発語の障害
第4回	運動特徴（痙直・アテトーゼ）	第19回	言語発達の評価
第5回	運動特徴（失調・その他）	第20回	発声発語機能の評価
第6回	摂食嚥下の発達段階	第21回	発声発語機能の評価　演習
第7回	摂食嚥下の発達（水分）	第22回	言語発達・発声発語機能の支援
第8回	脳性麻痺の摂食嚥下障害	第23回	言語発達・発声発語機能の支援
第9回	小児の摂食嚥下機能　評価		
第10回	小児の摂食嚥下機能　評価		第1～5回　…田中
第11回	小児の摂食嚥下機能　評価		第6～23回…本多
第12回	小児の摂食嚥下療法（間接訓練）		
第13回	小児の摂食嚥下療法（間接訓練）		
第14回	小児の摂食嚥下療法（直接訓練）		
第15回	小児の摂食嚥下療法（直接訓練）		

成績評価基準

試験　100%

教科書

藤田郁代：標準言語聴覚障害学　言語発達障害学　第３版.医学書院,2021.

参考書

実務経験に関する内容

小児病院、児童発達支援・放課後等デイサービス、養護学校で実務経験がある言語聴覚士および作業療法士の教員が演習を交えて講義を行う。

授業科目名	機能性構音障害			(フリガナ) 担当教員名	クリバヤシ　カズキ 栗林　一樹
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	30

授業概要

基礎となる構音・音韻発達を学び、機能性構音障害の評価・訓練への理解につなげる。

GIO（一般目標）

機能性構音障害について修得した知識・技能・態度を統合して臨床に適用し、言語聴覚療法の評価診断、言語治療（訓練・指導・支援）の技能を修得する。

SBO（行動目標）

①構音産生のメカニズムと構音発達を説明できる。
②機能性構音障害の定義を理解し説明できる。

授業回数	授業内容
第1回	語音産生のメカニズム
第2回	構音／音韻発達と音韻意識
第3回	機能性構音障害の定義
第4回	機能性構音障害の臨床の流れ
第5回	構音の誤り方
第6回	特異な構音操作による構音障害
第7回	検査・評価と診断の流れ（鑑別評価）
第8回	評価方法（新版　構音検査）
第9回	評価方法（その他の検査）
第10回	構音訓練の開始と経過観察
第11回	訓練立案の考え方
第12回	訓練の原理と原則
第13回	音韻認識・語音弁別の訓練法
第14回	構音操作訓練・構音訓練
第15回	事例検討会

成績評価基準

筆記試験100%

教科書

城本　修・原　由紀：標準言語聴覚障害学　第3版　発声発語障害学．医学書院，2021

参考書

実務経験に関する内容

小児リハビリテーションにおいて言語聴覚療法の臨床経験を持つ教員が、機能性構音障害に関する基礎知識、評価診断、訓練・支援についての講義を行う。

授業科目名	運動性構音障害Ⅰ			(フリガナ) 担当教員名	ヒラカワ　チエコ 平川　智恵子
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	30

授業概要

運動障害性構音障害の基本的知識について学ぶ。

GIO（一般目標）

運動障害性構音障害の基本概念と知識を習得する。

SBO（行動目標）

①運動障害性構音障害の定義を説明できる。
②運動障害性構音障害の種類と特徴を学ぶ。
③各タイプ別の発話特徴および身体症状を理解する。

授業回数	授業内容
第1回	運動障害性構音障害とは
第2回	聴覚的な発話特徴とタイプ分類
第3回	運動系の基礎理解　①錐体路系
第4回	運動系の基礎理解　②錐体外路系
第5回	運動系の基礎理解　③小脳系
第6回	運動系の基礎理解　④下位運動ニューロン
第7回	運動系の基礎理解　⑤筋系、脊髄損傷
第8回	タイプごとの病態・発話の特徴　①弛緩性構音障害（１）
第9回	タイプごとの病態・発話の特徴　②弛緩性構音障害（２）
第10回	タイプごとの病態・発話の特徴　③痙性構音障害
第11回	タイプごとの病態・発話の特徴　④失調性構音障害
第12回	タイプごとの病態・発話の特徴　⑤運動低下性構音障害・運動過多性構音障害
第13回	タイプごとの病態・発話の特徴　⑥混合性構音障害（１）
第14回	タイプごとの病態・発話の特徴　⑦混合性構音障害（２）、一側性上位運動ニューロン性構音障害
第15回	運動障害性構音障害の評価

成績評価基準

筆記試験100%

教科書

西尾正輝　著：ディサースリア臨床標準テキスト　第2版．医歯薬出版株式会社，2022
城本　修・原　由紀　編：標準言語聴覚障害学　発声発語障害学　第３版．医学書院，2021

参考書

医療情報科学研究所　編：病気がみえる 〈vol.7〉 脳・神経　第2版．メディックメディア，2018

実務経験に関する内容

急性期や回復期リハ、訪問リハ等において言語聴覚療法の臨床経験を持つ教員が、運動障害性構音障害に関する基礎知識、評価診断についての講義を行う。

授業科目名	摂食嚥下障害Ⅰ			(フリガナ) 担当教員名	ヒラカワ チエコ 平川　智恵子
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	30

授業概要

摂食嚥下障害の病態の理解と評価・訓練の方法を学ぶ。

GIO（一般目標）

摂食嚥下障害の原因となる代表的な疾患の病態と特徴を理解し、成人の摂食嚥下障害の評価診断の流れを学ぶ。

SBO（行動目標）

①疾患別摂食嚥下障害の特徴を理解する。
②評価に必要な収集すべき情報が列挙できる。スクリーニングテストの種類と方法を説明できる。
③間接訓練、直接訓練の方法を説明できる。

授業回数	授業内容
第1回	脳血管疾患に伴う摂食嚥下障害　①偽性球麻痺
第2回	脳血管疾患に伴う摂食嚥下障害　②球麻痺
第3回	神経筋疾患に伴う摂食嚥下障害　①ALS
第4回	神経筋疾患に伴う摂食嚥下障害　②パーキンソン病・パーキンソン症候群、筋強直性ジストロフィー
第5回	悪性腫瘍に伴う摂食嚥下障害
第6回	高次脳機能障害、認知症に伴う摂食嚥下障害
第7回	加齢に伴う摂食嚥下障害ーサルコペニア、フレイルとの関係
第8回	その他の要因による摂食嚥下障害、言語聴覚士の役割とチームアプローチ
第9回	合併症とリスク管理(誤嚥性肺炎・低栄養など）、感染症対策
第10回	摂食嚥下障害の評価　①情報収集～臨床評価
第11回	摂食嚥下障害の評価　②スクリーニングテスト
第12回	摂食嚥下障害の評価　③嚥下造影検査
第13回	摂食嚥下障害の評価　④嚥下内視鏡検査、その他の検査
第14回	総合評価、間接訓練と直接訓練①
第15回	間接訓練と直接訓練②

成績評価基準

筆記試験１００％

教科書

椎名英貴・倉智雅子　編：標準言語聴覚障害学　摂食嚥下障害学　第2版．医学書院，2021

参考書

実務経験に関する内容

急性期や回復期リハ、訪問リハ等において言語聴覚療法の臨床経験を持つ教員が、摂食嚥下障害に関する基礎知識、評価診断、訓練についての講義を行う。

授業科目名	吃音			(フリガナ) 担当教員名	イトハラ　ヒロツグ 糸原　弘承
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	30

授業概要

吃音の基礎知識、検査・評価、訓練・指導について、「言語聴覚士国家試験出題基準」の項目に準拠して講義を行います。

GIO（一般目標）

吃音の基礎知識、検査・評価、訓練・指導の理解を目指します。

SBO（行動目標）

・吃音の基礎知識、検査・評価ついて理解し、適切な訓練・指導ができること。
・吃音の国家試験の問題に正答できること。

授業回数	授業内容
第1回	A　基礎知識１　：吃音・流暢性障害の定義（発達性吃音、獲得性吃音）
第2回	A　基礎知識２　：吃音の発生メカニズムと理論的背景
第3回	A　基礎知識３　：吃音の発生メカニズムと理論的背景
第4回	A　基礎知識４　：吃音症状の特徴（発話症状、二次的症状）
第5回	B　検査・評価１：情報収集
第6回	B　検査・評価２：発話の評価
第7回	B　検査・評価３：心理面・性格特徴の評価
第8回	B　検査・評価４：環境面の評価
第9回	C　訓練・指導１：種類と理論的背景
第10回	C　訓練・指導２：種類と理論的背景
第11回	C　訓練・指導３：間接的訓練
第12回	C　訓練・指導４：間接的訓練
第13回	C　訓練・指導５：直接的訓練
第14回	C　訓練・指導６：直接的訓練
第15回	C　訓練・指導７：セルフヘルプグループ

成績評価基準

期末試験 100%

教科書

教科書は指定しません。講義は配布するレジュメで行います。

参考書

・城本修・原由紀（編集）、２０２１、標準言語聴覚障害学　発声発語障害学 第３版、医学書院
その他は、講義中に紹介します。

実務経験に関する内容

言語聴覚士、公認心理師として様々な吃音の方に接してきた経験を踏まえ、吃音の基礎知識、検査・評価、訓練・指導についてお話しします。

授業科目名	聴覚障害Ⅰ			(フリガナ) 担当教員名	栗林（クリバヤシ）　一樹（カズキ）
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	2	時間数	60

授業概要

聴覚障害の概要を学習し、評価・訓練につなげる。

GIO（一般目標）

聴覚障害および関連障害に関する基本的概念と知識を習得する。

SBO（行動目標）

①伝音性・感音性・混合性難聴を説明できる。
②各種聴覚検査の説明および検査が実施できる。
③遺伝形式および遺伝性難聴について説明できる。

授業回数	授業内容	
第1回	聴覚と聴覚障害	
第2回	聴覚障害のリハビリテーションの歴史と現状	
第3回	音の物理的特性	
第4回	聴覚の物理的特性	
第5回	聴覚の発生	
第6回	聴覚器官の解剖と生理	
第7回	伝音難聴	
第8回	感音難聴	
第９回	末梢感覚器官の疾患	
第10回	中枢聴覚伝導路の疾患	
第11回	遺伝性難聴	
第12回	耳　鳴	
第13回	平衡器の発生と解剖	
第14回	平衡器の生理と機能	
第15回	平衡障害疾患	
第16回	聴覚・平衡機能検査の概要	
第17回	純音聴力検査	自覚的聴覚検査
第18回	自記オージオメトリー	自覚的聴覚検査
第19回	純音による閾値上検査	自覚的聴覚検査
第20回	語音聴力検査	自覚的聴覚検査
第21回	インピーダンスオージオメトリー	他覚的聴覚検査
第22回	耳管機能検査	他覚的聴覚検査
第23回	耳音響放射・電気生理学的検査	他覚的聴覚検査
第24回	電気生理学的検査	他覚的聴覚検査
第25回	体平衡機能検査	平衡機能検査
第26回	眼振検査・迷路刺激検査	平衡機能検査
第27回	質問紙検査法・新生児聴覚スクリーニング検査	乳幼児聴力検査
第28回	聴性行動反応聴力検査	乳幼児聴力検査
第29回	視覚強化式聴力検査(VRA)・条件詮索反応聴力検査(COR)	乳幼児聴力検査
第30回	遊戯聴力検査・ことばの聞き取り検査	乳幼児聴力検査

成績評価基準

筆記試験100%

教科書

城間　将江：標準言語聴覚障害学　聴覚障害学　第3版．医学書院，2021.

参考書

実務経験に関する内容

急性期や回復期リハ、生活期での成人リハビリテーションにおいて言語聴覚療法の臨床経験を持つ教員が、聴覚障害に関する基礎知識、評価診断、訓練・支援についての講義を行う。

授業科目名	手話Ⅱ			(フリガナ) 担当教員名	カネイ コ ナシキ 金井 とみ子・梨木 さやか
開講学年	2年	開講学期	前期	必修／選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	1	時間数	30

授業概要

手話で日常会話を行うための語彙や文法を身につけ、より豊かな手話表現の習得を目指す。
また、ろう者の生活や背景を知り、理解を深める。

GIO（一般目標）

手話で日常会話を行うことができるための語彙や文法を身につけ、ろう者と会話できる。

SBO（行動目標）

概ね1000語の単語表現を身につける。
学校生活や地域の話題など、身近なできごとについて話すことができる。

授業回数	授業内容
第1回	基礎のおさらい
第2回	空間をうまく使いましょう①
第3回	空間をうまく使いましょう②
第4回	両手や指を使いましょう①
第5回	両手や指を使いましょう②
第6回	繰り返しの表現
第7回	意味に合った手話
第8回	まとめ
第9回	基本文法のまとめ①
第10回	基本文法のまとめ②
第11回	講義「聴覚障害者活動と福祉制度」
第12回	総復習
第13回	全国手話検定　筆記試験（模擬）
第14回	全国手話検定　面接試験（模擬）
第15回	試験

成績評価基準

定期試験＜筆記・実技＞

教科書

手話奉仕員養成テキスト　手話を学ぼう手話で話そう．全国手話研修センター

参考書

わたしたちの手話学習辞典Ⅰ

実務経験に関する内容

手話通訳士らにより、手話で日常会話を行うための語彙や文法を身につけ、より豊かな手話表現ができるよう教育する。

授業科目名	解剖学演習			(フリガナ) 担当教員名	イトハラ　ヒロツグ 糸原　弘承
開講学年	2年	開講学期	後期	必修／選択	選択
授業形態	演習	単位数	1	時間数	15

授業概要

ボーニー 人体骨格模型を用い、これまで学んできた解剖学の総復習をします。

GIO（一般目標）

解剖学の総復習を目指します。

SBO（行動目標）

解剖学に関する基本的な事項を理解し、説明できることです。

授業回数	授業内容
第1回	解剖学演習オリエンテーション
第2回	解剖学演習①
第3回	解剖学演習②
第4回	解剖学演習③
第5回	解剖学演習④
第6回	解剖学演習⑤
第7回	演習のまとめ
第8回	演習のまとめ

成績評価基準

レポート　100%

教科書

・井上貴央他（著）、２００４、ボーニー 人体骨格模型、西村書店

参考書

実務経験に関する内容

言語聴覚士、公認心理師として様々な解剖的知見に接してきた経験を踏まえ、解剖学演習を行います。

3年次

開講科目

授業科目名	社会保障学			(フリガナ) 担当教員名	三宅（ミヤケ）　綾子（アヤコ）
開講学年	3年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義及び演習	単位数	2	時間数	30

授業概要

リハビリテーションは関連する各制度のもとで行われる。制度の適切な適用を図るため、社会保障制度について学習するもの。

GIO（一般目標）

社会保障制度の概要と実際について理解する。自立支援・就労支援、社会保障制度や地域包括ケアシステムに関する専門職としての役割を法的な観点から理解した上で、他の関係機関との連携の必要性について理解する。

SBO（行動目標）

・社会保障制度の種類を列挙し、概要を説明できる。・社会保障制度の歴史について述べることができる
・生活環境に関わる制度について説明できる　・保健、医療、福祉の動向と政策について説明できる

授業回数	授業内容
第1回	私たちの暮らしと社会保障制度
第2回	社会保障制度の概要（種類・機能・役割）
第3回	医療保健制度の概要と実際
第4回	介護保健制度の問題と動向
第5回	介護保険制度の概要
第6回	地域包括ケアシステムの概要とリハビリテーション専門職の役割
第7回	障害者総合支援法（自立支援・就労支援含む）
第8回	障害者総合支援法（自立支援・就労支援含む）
第9回	年金制度
第10回	労災保険制度・社会手当
第11回	児童福祉法・生活保護法
第12回	バリアフリー・ユニバーサルデザインに関係する法制度
第13回	公衆衛生
第14回	社会福祉援助・多職種連携
第15回	保健・医療・福祉の動向と今後の施策

成績評価基準

後期末に筆記試験を実施する。60点未満の場合は再試験を実施する。

教科書

福田康生　著:社会保障・社会福祉　第24版.医学書院,2023.

参考書

随時、資料を配布します

実務経験に関する内容

急性期・回復期・維持期、外来リハ、訪問リハ、通所リハ、施設リハ等多分野において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み、講義・演習を行う。

授業科目名	検査法Ⅱ			(フリガナ) 担当教員名	青木(アオキ) 耕(コウ) ・ 本多(ホンダ) 真奈美(マナミ) 栗林(クリバヤシ) 一樹(カズキ) ・ 平川(ヒラカワ) 智恵子(チエコ)・糸原(イトハラ) 弘承(ヒロツグ)
開講学年	3年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	実技	単位数	6	時間数	90

授業概要

言語聴覚領域で言語聴覚士が実施する検査の目的・方法・結果の解釈を学ぶ。

GIO（一般目標）

言語聴覚療法において臨床で実施する専門的な評価診断の技能を修得する。

SBO（行動目標）

①検査の目的を理解し説明できる。
②検査の手続きを正確に実施できる。
③検査結果を分析できる。

授業回数	授業内容	授業回数	
第1回	スクリーニング検査【平川】	第23回	SLTA標準失語症検査【平川】
第2回	HDS-R・MMSE【平川】	第24回	SLTA標準失語症検査【平川】
第3回	SALA失語症検査【平川】	第25回	SLTA標準失語症検査【平川】
第4回	SALA失語症検査【平川】	第26回	トークンテスト【平川】
第5回	失語症語彙検査（TLPA）【平川】	第27回	バイタル【平川】
第6回	失語症語彙検査（TLPA）【平川】	第28回	実用コミュニケーション能力検査（CADL）【平川】
第7回	STAD　言語障害スクリーニングテスト【栗林】	第29回	リバーミード行動記憶検査（RBMT)【栗林】
第8回	ベントン視覚記銘検査(BVRT)【栗林】	第30回	リバーミード行動記憶検査（RBMT)【栗林】
第9回	S-PA　標準言語性対連合学習検査【栗林】	第31回	WMS-Rウエクスラー記憶検査【栗林】
第10回	レーヴン色彩マトリックス検査（RCPM）【栗林】	第32回	WMS-Rウエクスラー記憶検査【栗林】
第11回	コース立方体組み合わせテスト（kohs）【栗林】	第33回	WMS-Rウエクスラー記憶検査【栗林】
第12回	WISC-IV知能検査 【糸原】	第34回	BIT行動性無視検査【青木】
第13回	WISC-IV知能検査 【糸原】	第35回	BIT行動性無視検査【青木】
第14回	WAIS-Ⅲ成人知能検査【青木】	第36回	BADS 遂行機能障害症候群の行動評価【青木】
第15回	WAIS-Ⅲ成人知能検査【青木】	第37回	BADS 遂行機能障害症候群の行動評価【青木】
第16回	WAIS-Ⅲ成人知能検査【青木】	第38回	標準注意検査法・標準意欲評価法（CAT・CAS）【青木】
第17回	WAIS-Ⅲ成人知能検査【青木】	第39回	標準注意検査法・標準意欲評価法（CAT・CAS）【青木】
第18回	LCスケール　言語・コミュニケーション発達スケール【本多】	第40回	新版K式発達検査2020 【本多】
第19回	LCスケール　言語・コミュニケーション発達スケール【本多】	第41回	新版K式発達検査2020 【本多】
第20回	LCSA　学齢版　言語・コミュニケーション発達スケール【本多】	第42回	新版K式発達検査2020 【本多】
第21回	K-ABCⅡ 心理・教育アセスメントバッテリー 【糸原】	第43回	新版K式発達検査2020 【本多】
第22回	K-ABCⅡ 心理・教育アセスメントバッテリー 【糸原】	第44回	国リハ式〈S-S法〉言語発達遅滞検査【本多】
		第45回	国リハ式〈S-S法〉言語発達遅滞検査【本多】

成績評価基準

実技試験100%

教科書

白波瀬 元道編著：ST評価 ポケット手帳．株式会社ヒューマン・プレス，2020

参考書

実務経験に関する内容

急性期や回復期リハ、訪問リハ,小児リハ等において言語聴覚士として高次脳機能障害、失語症の臨床経験を持つ教員が、言語聴覚療法の評価診断に関する講義、演習を行う。

授業科目名	心理測定法			(フリガナ) 担当教員名	糸原（イトハラ）　弘承（ヒロツグ）
開講学年	3年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

心の状態を科学として表現するための方法、心理物理学的測定法、テスト理論、尺度構成法、調査法、データ解析法の領域ごとにお伝えします。

GIO（一般目標）

心の状態を科学として表現するための方法の理解を目指します。

SBO（行動目標）

心理測定法に関する基本的な事項を理解し、説明できることです。

授業回数	授業内容
第1回	A　心理物理学（精神物理学）的測定法：閾値の測定、尺度水準、誤差①
第2回	A　心理物理学（精神物理学）的測定法：閾値の測定、尺度水準、誤差②
第3回	B　テスト理論１：標準化、妥当性①
第4回	B　テスト理論１：標準化、妥当性②
第5回	B　テスト理論２：信頼性、因子分析①
第6回	B　テスト理論２：信頼性、因子分析②
第7回	C　尺度構成法１：評定法、順位法、一対比較法①
第8回	C　尺度構成法１：評定法、順位法、一対比較法②
第9回	C　尺度構成法２：比率尺度構成法、多次元尺度構成法①
第10回	C　尺度構成法２：比率尺度構成法、多次元尺度構成法②
第11回	D　調査法１：質問紙法
第12回	D　調査法２：サンプリング
第13回	E　データ解析法：記述統計、推測統計、検定①
第14回	E　データ解析法：記述統計、推測統計、検定②
第15回	E　データ解析法：記述統計、推測統計、検定③

成績評価基準

期末試験 100%

教科書

教科書は指定しません。講義は配布するレジュメで行います。

参考書

・山田弘幸(編集)、２０２０、言語聴覚士のための 心理学 第２版、医歯薬出版
・市川伸一 (編集)、１９９１、心理測定法への招待、東京大学出版会、サイエンス社

実務経験に関する内容

言語聴覚士、公認心理師、認定心理士、心理学検定１級として様々な心理学的な知見に接してきた経験を踏まえ、心の状態を科学として表現するための方法を概観します。

授業科目名	音響学・聴覚心理学			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト　ユキエ 山本　有紀恵
開講学年	3年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

音響学・聴覚心理学に関する基礎的な知識を身につける。

GIO（一般目標）

難しい内容ですが、「音とは何か」を理解するための基礎となる科目です。

SBO（行動目標）

授業回数	授業内容
第1回	音とは何か
第2回	音の物理①
第3回	音の物理②
第4回	音の物理③
第5回	音の物理①
第6回	共鳴①
第7回	共鳴②
第8回	サウンドスペクトログラフ
第9回	音声のデジタル化
第10回	音声の特徴
第11回	聴覚心理学とは
第12回	音の大きさ
第13回	音の高さ
第14回	音の知覚
第15回	環境と聴覚

成績評価基準

筆記試験（70%）
授業態度（30%）

教科書

今泉敏 ：言語聴覚士のための音響学、医歯薬出版、2007.

参考書

実務経験に関する内容

医療福祉の分野で専任言語聴覚士として勤務している講師が、音響学・聴覚心理学に関する基礎的な知識について教育する。

授業科目名	関係法規			(フリガナ) 担当教員名	アオキ　コウ 青木　耕
開講学年	3年	開講学期	前期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業概要

言語聴覚士法と診療報酬体系について学ぶ。

GIO（一般目標）

言語聴覚士の法的基盤を説明できる。

SBO（行動目標）

①言語聴覚士法について理解し、説明できる。
②診療報酬の仕組みを理解し、診療報酬点数の計算ができる。

授業回数	授業内容
第1回	言語聴覚士法とは
第2回	１条～20条
第3回	21条～40条
第4回	41条～50条
第5回	診療報酬の仕組みを学ぶ
第6回	単位制とリハビリテーションの区分
第7回	言語聴覚士が関係する診療報酬
第8回	診療報酬の計算

成績評価基準

筆記試験100%

教科書

参考書

実務経験に関する内容

言語聴覚療法の臨床経験を持つ教員がST法の詳細から診療報酬の内容まで講義を行う。

授業科目名	地域言語聴覚療法学			(フリガナ) 担当教員名	クリバヤシ　カズキ 栗林　一樹
開講学年	3年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	30

授業概要

地域における言語聴覚士の担う役割に関する基礎知識について学ぶ。

GIO（一般目標）

地域言語聴覚療法の基礎的概念と方法を修得する。

SBO（行動目標）

①地域リハビリテーションの歴史的・社会的背景を概説できる。
②地域リハビリテーションに関連する基本概念を説明できる。
③地域言語聴覚療法を支えるシステム（医療・介護関連法規）を説明できる。

授業回数	授業内容
第1回	地域リハビリテーションの社会背景・概念
第2回	地域言語聴覚療法とは
第3回	地域言語聴覚療法のシステムと制度
第4回	地域における連携（関連職種と言語聴覚士の役割）
第5回	地域言語聴覚療法の展開
第6回	地域包括ケアにおける言語聴覚療法
第7回	介護予防における言語聴覚療法
第8回	外来における言語聴覚療法
第9回	通所・入所・在宅における言語聴覚療法
第10回	発達・教育の支援（小児）
第11回	乳幼児健康診査における取り組み
第12回	外来・通所・就学後の取り組みについて
第13回	特別支援教育、肢体不自由およびにおける取り組み
第14回	災害時における言語聴覚士の役割
第15回	コミュニケーション危機による支援

成績評価基準

レポート 100%

教科書

半田　理恵子・藤田　郁代；標準言語聴覚障害学　地域言語聴覚療法学．医学書院，2019

参考書

配布資料

実務経験に関する内容

急性期や回復期リハ、生活期のリハビリテーション、小児分野において言語聴覚療法の
臨床経験をもつ教員が地域リハビリテーションについての講義を行う。

授業科目名	言語聴覚障害診断学			(フリガナ) 担当教員名	青木（アオキ）　耕（コウ）
開講学年	3年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	30

授業概要

言語聴覚障害を診断するための技法を学ぶ。

GIO（一般目標）

言語聴覚障害の評価診断の基本的概念・技能・態度を習得する。

SBO（行動目標）

①評価診断の基本的概念を説明できる。
②評価診断のプロセスを説明できる。
③各種言語聴覚障害の評価診断を模擬的に実施できる。

授業回数	授業内容
第1回	評価診断の目的
第2回	評価診断の基本理念
第3回	測定、評価、診断の違い
第4回	情報収集
第5回	患者面接
第6回	スクリーニングテストの目的
第7回	スクリーニングテストの作成
第8回	総合検査と掘り下げ検査
第9回	検査施行上の留意点
第10回	検査結果の解釈、評価、診断
第11回	評価診断の模擬的実施
第12回	評価診断の模擬的実施から評価まで
第13回	評価診断の模擬的実施から訓練へ
第14回	障害の検出に必要な検査
第15回	障害の検出に必要な検査の選択方法

成績評価基準

レポート100%

教科書

言語聴覚士のための臨床実習テキスト[成人編]　建帛社　深浦順一、為数哲司、内山量史　編著

参考書

なし

実務経験に関する内容

言語聴覚療法の臨床経験がある教員がST診断に必要な面接法から各種評価までを講義する。

授業科目名	失語症Ⅱ			(フリガナ) 担当教員名	ヒラカワ　チエコ 平川　智恵子
開講学年	3年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	60

授業概要

失語症患者の評価・診断・訓練・援助について学ぶ。

GIO（一般目標）

失語症に対する言語聴覚療法の評価診断および言語治療に関する知識・技能を習得する。

SBO（行動目標）

①失語症の評価・診断の原則を説明できる。
②失語症の言語治療を説明できる。
③言語情報処理システムについて学び、失語症の障害メカニズムを理解する。

授業回数	授業内容
第1回	失語症の言語聴覚療法の全体像
第2回	失語症の評価・診断　情報収集　①医学面、関連行動面、社会・心理面
第3回	失語症の評価・診断　情報収集　②言語・コミュニケーション面、認知機能
第4回	情報の統合と評価のまとめ、鑑別診断
第5回	言語治療の基本原則（病期別の言語聴覚療法、安全管理）
第6回	言語治療の理論と技法　①刺激法、行動変容アプローチ、機能再編成法
第7回	言語治療の理論と技法　②語用論的アプローチ、メロディック・イントネーション・セラピー
第8回	言語治療の理論と技法　③認知神経心理学的アプローチ　聴覚的理解
第9回	言語治療の理論と技法　④認知神経心理学的アプローチ　呼称
第10回	言語治療の理論と技法　⑤認知神経心理学的アプローチ　復唱、読解
第11回	言語治療の理論と技法　⑥認知神経心理学的アプローチ　音読
第12回	言語治療の理論と技法　⑦認知神経心理学的アプローチ　書称、書取
第13回	言語治療の理論と技法　⑧認知神経心理学的アプローチ　文の処理、新版失語症構文検査
第14回	言語治療の理論と技法　⑨認知神経心理学的アプローチ　訓練プランの立て方
第15回	言語治療の理論と技法　⑩社会的アプローチ、CI言語療法、非侵襲性脳刺激
第16回	急性期の評価・訓練・支援
第17回	機能回復訓練　①語彙訓練
第18回	機能回復訓練　②構文訓練、文字・音韻訓練
第19回	機能回復訓練　③発語失行訓練
第20回	活動・参加訓練
第21回	生活適応期の訓練・支援、社会復帰
第22回	言語治療結果のまとめと報告・症例報告書の作成方法
第23回	失語症者とのコミュニケーション方法
第24回	症例演習①
第25回	症例演習②
第26回	症例報告書の作成①
第27回	症例報告書の作成②
第28回	症例報告書の作成③
第29回	症例報告書の作成④
第30回	演習のまとめ

成績評価基準

前期：筆記試験１００％
後期：筆記試験60%、レポート+演習40%

教科書

藤田郁代・立石雅子・菅野倫子　編：標準言語聴覚障害学　失語症学　第３版．医学書院，2021
小嶋知幸　編著：なるほど！失語症の評価と治療．金原出版株式会社，2010

参考書

実務経験に関する内容

急性期や回復期リハ、訪問リハ等において言語聴覚士として高次脳機能障害、失語症の臨床経験を持つ教員が、
失語症に関する基礎知識、評価診断、訓練についての講義を行う。

授業科目名	高次脳機能障害			(フリガナ) 担当教員名	青木（アオキ）　耕（コウ）
開講学年	3年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	60

授業概要

高次脳機能障害の基礎から訓練方法まで学ぶ。

GIO（一般目標）

高次脳機能障害の基本概念と評価、訓練方法を習得する。

SBO（行動目標）

①各種高次脳機能障害の定義を説明できる。
②各種高次脳機能障害を的確に評価できる。
③各種高次脳機能障害に応じた訓練が実施できる。

授業回数	授業内容
第1回	脳解剖および脳血管の復習
第2回	高次脳機能障害とは
第3回	高次脳機能障害の原因と割合
第4回	各論（視覚認知障害の定義）
第5回	各論（視覚認知障害の評価）
第6回	各論（視覚認知障害の訓練）
第7回	各論（半側空間無視の定義）
第8回	各論（半側空間無視の評価）
第9回	各論（半側空間無視の訓練）
第10回	各論（その他の失認）
第11回	各論（失行の定義）
第12回	各論（失行の評価）
第13回	各論（失行の訓練）
第14回	各論（その他の行為障害）
第15回	各論（記憶障害の定義）
第16回	各論（記憶障害の評価）
第17回	各論（記憶障害の訓練）
第18回	各論（前頭葉機能障害の定義）
第19回	各論（前頭葉機能障害の評価）
第20回	各論（前頭葉機能障害の訓練）
第21回	各論（脳梁離断症状）
第22回	各論（認知症の定義）
第23回	各論（認知症の評価）
第24回	各論（認知症の評価と対応）
第25回	その他の高次脳機能障害
第26回	高次脳機能障害評価シミュレーション　病巣情報あり
第27回	高次脳機能障害評価シミュレーション　病巣情報なし
第28回	高次脳機能障害評価シミュレーション　シークレット
第29回	高次脳機能障害の問題から理解を深める
第30回	高次脳機能障害の問題から理解を深める

成績評価基準

筆記試験100%

教科書

藤田郁代；標準言語聴覚障害学　高次脳機能障害学　第3版．医学書院，2021
石合純夫；高次脳機能障害学　第3版．医歯薬出版株式会社，2022

参考書

実務経験に関する内容

急性期病院で高次脳機能障害に対するリハビリテーション経験を持つ教員が検査から訓練までを教授する。

授業科目名	言語発達障害Ⅱ			(フリガナ) 担当教員名	糸原（イトハラ）　弘承（ヒロツグ）
開講学年	3年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	2	時間数	60

授業概要

言語発達障害の評価・支援方法について演習を交えて学びます。

GIO（一般目標）

言語発達障害の評価から支援の流れを習得することです。

SBO（行動目標）

言語発達障害の評価方法や支援法について説明し、模擬的に実施できることです。

授業回数	授業内容	授業回数	授業内容
第1回	前言語期の評価①	第16回	限局性学習障害の評価②
第2回	前言語期の評価②	第17回	限局性学習障害の支援
第3回	前言語期の支援①	第18回	注意欠如・多動性障害の評価①
第4回	前言語期の支援②	第19回	注意欠如・多動性障害の評価②
第5回	幼児前期の評価①	第20回	注意欠如・多動性障害の支援
第6回	幼児前期の評価②	第21回	自閉症スペクトラム障害の評価①
第7回	幼児前期の支援①	第22回	自閉症スペクトラム障害の評価②
第8回	幼児前期の支援②	第23回	自閉症スペクトラム障害の支援①
第9回	幼児後期の評価①	第24回	自閉症スペクトラム障害の支援②
第10回	幼児後期の評価②	第25回	知的能力障害の評価①
第11回	幼児後期の支援	第26回	知的能力障害の評価②
第12回	学童期の評価・支援	第27回	知的能力障害の支援
第13回	＜S-S法＞にもとづいた支援①	第28回	特異的言語発達障害の評価
第14回	＜S-S法＞にもとづいた支援②	第29回	特異的言語発達障害の支援
第15回	限局性学習障害の評価①	第30回	ＩＣＴ支援と合理的配慮

成績評価基準

期末試験８０％、提出物１０％、受講態度１０％

教科書

・深浦順一、藤野博、石坂郁代（編集）、２０２１、言語発達障害学 第３版、医学書院
・レジュメを配布します。

参考書

講義内で適宜、紹介します。
＊言語発達学、言語発達障害Ｉを復習した上で受講してください。

実務経験に関する内容

言語聴覚士、公認心理師、特別支援教育士として、障がいをお持ちのお子さん、親御さんに接してきた経験を活かして、言語発達障害の評価・支援の講義・演習を行います。

授業科目名	言語発達障害演習			(フリガナ) 担当教員名	ホンダ マナミ 本多　真奈美
開講学年	3年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	2	時間数	45

授業概要

言語発達障害児を評価し、ICFに基づいた全体像の把握から支援方法を考案し実施するという、一連の臨床の流れを学修する。

GIO（一般目標）

典型的な言語発達障害児の評価・支援方法を身に付ける。

SBO（行動目標）

①言語発達検査、知能検査、発達検査の種類と特徴を説明できる。
②子どもとコミュニケーションを図り、良好な関係を築くことができる。
③症状を把握し、ICFに基づいた全体像の整理、適切な評価・支援を実施できる。

授業回数	授業内容	授業回数	授業内容
第1回	症例紹介、症例レポートの書き方	第16回	支援教材の作製
第2回	評価方法の立案①	第17回	支援教材の作製
第3回	評価方法の立案②	第18回	学内演習（個別訓練）３回目
第4回	検査演習	第19回	症例レポート（訓練結果）
第5回	検査演習	第20回	症例レポート（考察まとめ）
第6回	検査演習	第21回	レジュメとは
第7回	学内演習（評価）1回目	第22回	レジュメ作成
第8回	学内演習（評価）２回目	第23回	症例報告会
第9回	症例レポート（結果）		
第10回	症例レポート（考察）		
第11回	ICFによる全体像の整理①		
第12回	ICFによる全体像の整理②		
第13回	目標設定		
第14回	支援方法の立案		
第15回	報告書作成（保護者宛）		

成績評価基準

演習　70%　　レポート　30%
グループで役割分担をすること。連携を図ることができる者をより評価する。

教科書

藤田郁代：標準言語聴覚障害学　言語発達障害学　第３版.医学書院,2021.
深浦順一：言語聴覚士のための臨床実習テキスト．建帛社，2018.

参考書

実務経験に関する内容

児童発達支援・放課後等デイサービスや養護学校で言語聴覚士としての実務経験があり、浜田市相談支援チームのメンバーとして保育所巡回に従事している教員が、実践的な教育を行う。

授業科目名	音声障害			(フリガナ) 担当教員名	クリバヤシ　カズキ 栗林　一樹
開講学年	3年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	30

授業概要

音声について復習し、音声障害の基本的な知識をもとに評価および支援方法を学ぶ。

GIO（一般目標）

音声障害の基本的な概念および知識をもとに、評価および支援方法を修得する。

SBO（行動目標）

①音声障害の原因と発症メカニズムを説明できる。
②音声障害の病態と症状を説明できる。
③評価方法・訓練法を実施できる。

授業回数	授業内容
第1回	発声器官・呼吸器の構造と機能
第2回	声の特性（発声メカニズム）
第3回	器質的音声障害の原因
第4回	機能的音声障害の原因
第5回	音声障害の症状
第6回	特殊な音声障害の症状
第7回	評価診断の原則
第8回	聴覚心理的評価（GRBAS尺度）
第9回	自覚的評価、声帯振動に関する検査
第10回	空気力学的検査、音響検査
第11回	医学的治療　～外科的治療、薬物治療～
第12回	音声治療　間接訓練
第13回	音声治療　直接訓練
第14回	無喉頭音声　～食道発声、電気式人工喉頭～
第15回	無喉頭音声　～気管切開、シャント発声～

成績評価基準

筆記試験100%

教科書

城本　修・原　由紀：標準言語聴覚障害学　第3版　発声発語障害学．医学書院，2021

参考書

実務経験に関する内容

急性期や回復期リハ期での成人リハビリテーションにおいて言語聴覚療法の臨床経験を持つ教員が、音声障害に関する基礎知識、評価診断、訓練・支援についての講義を行う。

授業科目名	器質性構音障害			(フリガナ) 担当教員名	クリバヤシ カズキ ヒラカワ チエコ 栗林 一樹・平川 智恵子
開講学年	3年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	30

授業概要

先天性・後天性による器質性構音障害について学ぶ。

GIO（一般目標）

器質性構音障害の評価・診断および言語治療（訓練・指導・支援）の技能を修得し、臨床に活かすことができる。

SBO（行動目標）

①発話障害の基本概念が説明できる。
②障害の全体像を把握し、言語治療の優先順位を決定できる。
③小児・成人器質性構音障害の症状および特性に応じて基本的な訓練・支援を実践できる。

授業回数	授業内容	
第1回	頭頸部癌の種類と特徴	平川
第2回	頭頸部癌の治療法	
第3回	器質性構音障害の評価	
第4回	器質性構音障害の訓練、併存する問題	
第5回	歯科補綴装置	
第6回	舌・口底切除後の構音障害	
第7回	中咽頭・顎切除後の構音障害	
第8回	小児の発話障害（原因と分類）	栗林
第9回	口蓋裂による器質性構音障害について	
第10回	その他の器質性構音障害	
第11回	特異的構音操作の誤りについて	
第12回	小児器質性構音障害の口腔器官評価	
第13回	小児器質性構音障害の構音評価	
第14回	訓練の基本的な考え方	
第15回	構音訓練のアプローチ方法	

成績評価基準

筆記試験100%

教科書

城本　修・原　由紀　編：標準言語聴覚障害学　発声発語障害学　第３版．医学書院，2021

参考書

配布資料

実務経験に関する内容

急性期や回復期リハ、訪問リハ、小児のリハビリテーションにおいて言語聴覚療法の臨床経験を持つ教員が、器質性構音障害に関する基礎知識、評価診断についての講義を行う。

授業科目名	運動性構音障害Ⅱ			(フリガナ) 担当教員名	クリバヤシ　カズキ 栗林　一樹
開講学年	3年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	30

授業概要

運動障害性構音障害の評価診断法・訓練法について学ぶ。

GIO（一般目標）

運動障害性構音障害の病因別の特徴的症状を理解し、評価・支援方法を修得する。

SBO（行動目標）

①運動障害性構音障害の評価・診断が説明できる。
②運動障害性構音障害の言語治療を説明できる。
③言語治療理論に基づいた評価・訓練を実施できる。

授業回数	授業内容
第1回	運動障害性構音障害の評価の流れ
第2回	運動障害性構音障害の評価と検査
第3回	標準ディサースリア検査（AMSD）の手順
第4回	標準ディサースリア検査（AMSD）の結果の解釈
第5回	標準失語症検査補助テスト（SLTA－ST　発声発語器官検査）の手順
第6回	標準失語症検査補助テスト（SLTA－ST　発声発語器官検査）の結果の解釈
第7回	治療アプローチの分類、言語治療の目標
第8回	運動療法的アプローチの基本
第9回	タイプごとの言語治療
第10回	呼吸機能へのアプローチ
第11回	発声機能へのアプローチ
第12回	鼻咽腔閉鎖機能へのアプローチ
第13回	口腔構音機能へのアプローチ
第14回	発話速度の調整法
第15回	拡大・代替コミュニケーション・アプローチ

成績評価基準

筆記試験100%

教科書

西尾正輝　著：ディサースリア臨床標準テキスト　第2版．医歯薬出版株式会社，2022
城本　修・原　由紀　編：標準言語聴覚障害学　発声発語障害学　第３版．医学書院，2021

参考書

医療情報科学研究所　編：病気がみえる 〈vol.7〉 脳・神経　第2版．メディックメディア，2018

実務経験に関する内容

急性期や回復期リハ、生活期リハ等において言語聴覚療法の臨床経験を持つ教員が、運動障害性構音障害に関する基礎知識、評価診断・訓練法についての講義を行う。

授業科目名	摂食嚥下障害Ⅱ			(フリガナ) 担当教員名	栗林(クリバヤシ)　一樹(カズキ)・青木(アオキ)　耕(コウ)
開講学年	3年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	60

授業概要

摂食嚥下障害の臨床で実施でする訓練手技・支援方法について学ぶ。

GIO（一般目標）

摂食嚥下障害について治療（訓練・指導・支援）の技能を修得する。

SBO（行動目標）

①特性に応じた間接訓練・直接訓練が実施できる。
②各疾患に対するアプローチ方法を理解し説明できる。

授業回数	授業内容	
第1回	摂食嚥下障害の重症度・予後予測	栗林
第2回	介入計画立案（ICFに基づいて）	
第3回	間接訓練（口腔器官訓練，咳嗽・呼吸訓練）	
第4回	間接訓練および直接訓練（嚥下反射誘発法、各嚥下手技）	
第5回	代替栄養法（静脈栄養法，経腸栄養法）	
第6回	直接訓練法　①食事場面の設定、姿勢の調整	
第7回	直接訓練法　②咽頭残留除去法、食具の選択	
第8回	外科的治療・装具療法	
第9回	リハビリテーション栄養	
第10回	脳血管障害　①摂食嚥下障害の特徴と対応	
第11回	脳血管障害　②特性と支援プログラム	
第12回	脳血管障害　③事例検討	
第13回	神経筋疾患　①訓練・支援の考え方	
第14回	神経筋疾患　②誤嚥性肺炎の対策、介入プログラム	
第15回	神経筋疾患　③事例検討	
第16回	嚥下調整食　①学会分類2021（とろみ）	
第17回	嚥下調整食　②学会分類2021（食事）	
第18回	嚥下調整食　③各期に適した嚥下食の選択	
第19回	器質性疾患　①嚥下障害の特徴と対応の原則	
第20回	器質性疾患　②外科的治療、化学放射線治療、心理サポート	
第21回	器質的疾患　③事例検討	
第22回	認知症への食支援　①各認知症の特徴	
第23回	認知症への食支援　②各認知症への対応	
第24回	加齢、サルコペニアに伴う摂食嚥下障害への支援・介入	
第25回	フレイル・オーラルフレイルの理解	
第26回	口腔ケア①	青木
第27回	口腔ケア②	
第28回	救急対応の基礎知識	
第29回	救急対応の基礎知識（吸引）	
第30回	救急対応の基礎知識（吸引）	

成績評価基準

筆記試験100%

教科書

椎名　英貴・倉知　雅子；標準言語聴覚障害学　摂食嚥下障害学　第2版．医学書院，2021
藤島　一郎　他；嚥下障害ポケットマニュアル　第4版．医歯薬出版株式会社，2018

参考書

実務経験に関する内容

急性期や回復期リハ、生活期での成人リハビリテーションにおいて言語聴覚療法の臨床経験を
持つ教員が、摂食嚥下障害に関する基礎知識、評価診断、訓練・支援についての講義を行う。

授業科目名	聴覚障害Ⅱ			(フリガナ) 担当教員名	タマガワ　トモヤ 玉川　友哉
開講学年	3年	開講学期	前期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	20

授業概要

成人および小児の聴覚障害の評価・訓練・社会的背景について学ぶ

GIO（一般目標）

教科書の内容を理解する

SBO（行動目標）

教科書の内容を理解し、自身の意見を書記化できる

授業回数	授業内容
第1回	成人聴覚障害（評価・訓練）
第2回	
第3回	
第4回	小児聴覚障害 評価
第5回	
第6回	
第7回	小児聴覚障害 訓練
第8回	
第9回	
第10回	特異的な聴覚障害

成績評価基準

定期試験100%

教科書

日本聴覚医学会編：聴覚検査の実際，南山堂
藤田　郁代　監：標準言語聴覚障害学　聴覚障害学，医学書院

参考書

実務経験に関する内容

大学病院で言語聴覚士として臨床業務に従事する講師により、補聴器および人工内耳に関する教育を行う。

授業科目名	視覚聴覚二重障害			(フリガナ) 担当教員名	本多（ホンダ）　真奈美（マナミ）
開講学年	3年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	1	時間数	30

授業概要

視覚聴覚二重障害者のコミュニケーション支援について演習を通して学びます。アイマスクやイヤホンを付け疑似体験を行うことで、障害特徴についてより理解を深めていただきたいと思います。

GIO（一般目標）

視覚聴覚二重障害者のコミュニケーション支援を修得する。

SBO（行動目標）

①視覚聴覚二重障害のコミュニケーション支援を模擬的に実施できる。
②発症時期の違いによる評価と訓練・支援を説明できる。

授業回数	授業内容
第1回	視覚聴覚二重障害の概要
第2回	視覚聴覚二重障害の原因
第3回	視覚聴覚二重障害の原因（報告）
第4回	視覚聴覚二重障害の原因（まとめ）
第5回	視覚障害　ロービジョン体験
第6回	視覚聴覚二重障害のコミュニケーション方法(手書き文字、触手話、指文字触読)
第7回	視覚聴覚二重障害のコミュニケーション方法(筆談、点字、指点字)
第8回	視覚聴覚二重障害のコミュニケーション方法(ブリスタ、キュードスピーチ)
第9回	視覚聴覚二重障害になる経緯
第10回	先天性の視覚聴覚二重障害　特徴
第11回	先天性の視覚聴覚二重障害　支援
第12回	後天性の視覚聴覚二重障害　特徴
第13回	後天性の視覚聴覚二重障害　支援
第14回	視覚聴覚二重障害　疑似体験
第15回	視覚聴覚二重障害　移動介助

成績評価基準

試験　80%　　演習態度　10%　　提出物　10%

教科書

藤田郁代：標準言語聴覚障害学　聴覚障害学　第3版.医学書院,2021.

参考書

実務経験に関する内容

盲ろう者ガイドヘルパー、島根県手話奉仕員の資格を持つ教員（言語聴覚士）が、触手話・指点字・ブリスタなどのコミュニケーション演習を中心に教育を行う。

授業科目名	補聴器			(フリガナ) 担当教員名	タマガワ トモヤ ホンダ マナミ 玉川 友哉・本多 真奈美
開講学年	3年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	1	時間数	30

授業概要

補聴器と人工内耳のしくみを講義形式で説明する。

GIO（一般目標）

補聴器と人工内耳が必要になる聴覚障害の病態・術後のリハビリなどの基本事項を身につける。

SBO（行動目標）

補聴器と人工内耳のしくみについて、簡単に説明できる。

授業回数	授業内容	
第1回	聴覚障害の基礎①	玉川
第2回	聴覚障害の基礎②	
第3回	補聴器を触ってみよう①	本多
第4回	補聴器を触ってみよう②	
第5回	補聴器の基礎①	玉川
第6回	補聴器の基礎②	
第7回	補聴器の種類	
第8回	補聴器のフィッティング	
第9回	人工内耳の基礎①	
第10回	人工内耳の基礎②	
第11回	適応基準	
第12回	人工内耳のマッピング	
第13回	人工内耳のリハビリ	
第14回	特別な人工内耳・補聴器について	
第15回	総論まとめ	

成績評価基準

定期試験100%

教科書

日本聴覚医学会編：聴覚検査の実際，南山堂

参考書

実務経験に関する内容

大学病院で言語聴覚士として臨床業務に従事する講師により、補聴器および人工内耳に関する教育を行う。補聴器メーカーに講義協力も得る。

授業科目名	評価実習			(フリガナ) 担当教員名	ゲンゴチョウカクガッカキョウイン 言語聴覚学科教員
開講学年	3年	開講学期	後期	必修／選択	必修
授業形態	実習	単位数	3	時間数	120

授業概要

実習施設の臨床実習指導者の下で評価実習を行う。

GIO（一般目標）

適切な検査を用いて対象者を正確に評価する。

SBO（行動目標）

①適切な検査を選択し、正確に検査の実施ができる。
②検査結果からICFを用いた正確な評価ができる。

授業回数	授業内容
	学外の実習施設において3週間の実習を実施する。対象者に対し、適切な検査バッテリーを用いて正確な検査の実施を目指す。その検査結果をもとにICFを用いて正確な評価を行い、4年次の臨床実習につなげる。 症例報告書では訓練の立案までを作成する。実習地での実習後は、学内で症例報告会を実施する。 ※3年次の「評価実習」および4年次の「臨床実習」において、合計320時間以上は病院または診療所で行うこととする。

成績評価基準

実習指導者の評価90%、学内での症例報告会10%

教科書

参考書

実務経験に関する内容

急性期や回復期リハ、生活期、児童発達支援・放課後等デイサービス等において言語聴覚士として臨床経験を持つ教員が、評価実習、症例報告等の指導を行う。

授業科目名	解剖学演習			(フリガナ) 担当教員名	イトハラ　ヒロツグ 糸原　弘承
開講学年	3年	開講学期	後期	必修／選択	選択
授業形態	演習	単位数	1	時間数	15

授業概要

ボーニー 人体骨格模型を用い、これまで学んできた解剖学の総復習をします。

GIO（一般目標）

解剖学の総復習を目指します。

SBO（行動目標）

解剖学に関する基本的な事項を理解し、説明できることです。

授業回数	授業内容
第1回	解剖学演習オリエンテーション
第2回	解剖学演習①
第3回	解剖学演習②
第4回	解剖学演習③
第5回	解剖学演習④
第6回	解剖学演習⑤
第7回	演習のまとめ
第8回	演習のまとめ

成績評価基準

レポート　100%

教科書

・井上貴央他（著）、２００４、ボーニー 人体骨格模型、西村書店

参考書

実務経験に関する内容

言語聴覚士、公認心理師として様々な解剖的知見に接してきた経験を踏まえ、解剖学演習を行います。

授業科目名	ST援助技術			(フリガナ) 担当教員名	アンドウ タマミ ・ ミヤザキ マリコ 安藤　珠美 ・ 宮﨑　真理子
開講学年	3年	開講学期	通年	必修／選択	選択
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業概要

“レクリエーション”を知る。（安藤）

音楽療法の基本的考え方や基礎を学ぶ。（宮﨑）

STとしての仕事（知識・技術）の中に、治療方法の一つとして動物介在療法（アニマルセラピー）を知る。

GIO（一般目標）

レクリエーションの楽しさを体感してほしいと思います。（安藤）

現場ですぐに役立つ音楽的アプローチを覚え、基本的知識を身につけましょう。（宮﨑）

動物介在療法（アニマルセラピー）を言語聴覚療法に取り入れスキルアップを図る。

SBO（行動目標）

①レクリエーションの特徴を説明できる。　②音楽療法を実践できる。
③アニマルセラピーを企画できる。　④動物介在療法を使った治療プログラムを考案できる。

授業回数	授業内容	
第1回	アイスブレーキング	担当：安藤
第2回	それぞれの対象者に合わせたレクリエーションの実際　乳幼児、親子	
第3回	それぞれの対象者に合わせたレクリエーションの実際　小、中学生～	
第4回	それぞれの対象者に合わせたレクリエーションの実際　高齢者、障がいを持った方	
第5回	福祉レクリエーションについて	
第6回	音楽療法理論の基礎	担当：宮崎
第7回	音楽療法実践体験	
第8回	対象者のニーズに即した音楽活用方法	
第9回	音楽療法における多感覚アプローチ	
第10回	現場で役立つ音楽療法実践	
第11回 第12回	アニマルセラピーの歴史、基礎理念、効果について	
第13回	アニマルセラピーに参加できる動物とその教育（トレーニング）について	
第14回	アニマルセラピー参加中の動物を使ってのセラピー模擬実習	
第15回	STとしてアニマルセラピーを使った治療プログラムの考案検討会	

成績評価基準

レポートによる評価（宮﨑）

レポート（安藤）

講義・実習の受講と最後の治療プログラムの考案検討会参加

参考書

村井靖児 著：音楽療法の基礎,音楽之友社

二俣泉 著：音楽療法士の3つのオキテ,音楽之友社.

加藤元　監：ペットでいやそうこころの病気,成美堂出版.

岩本隆茂、福井至　編：アニマルセラピーの理論と実際.培風館.

実務経験に関する内容

本科目はオムニバスである。日本動物病院協会、全米ストレングス＆コンディショニング協会認定パーソナルトレーナー認定音楽療法士等の資格を有する講師が、言語聴覚士に必要な知識・技術について教育する。

４年次

開講科目

授業科目名	臨床実習			(フリガナ) 担当教員名	ゲンゴ チョウカク ガッカ キョウイン 言語聴覚学科教員
開講学年	4年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	実習	単位数	14	時間数	560

授業概要

実習施設の臨床実習指導者の下で臨床実習を行う。

GIO（一般目標）

正確な評価をもとに訓練を立案・実施し、その効果を測定する。

SBO（行動目標）

①適切な評価ができる。
②評価をもとに適切な訓練の立案・実施ができる。
③訓練効果を測定し、計画の修正ができる。

授業回数	授業内容
	学外の実習施設において7週間の実習を2回実施する。対象者に対し、正確な評価をもとに訓練計画を立案し、訓練を実施する。訓練期間終了後には再評価を実施し、訓練効果を測定する。訓練効果によっては計画を修正する。症例報告書では訓練プログラムから再評価、考察までを作成する。 実習地での実習後は学内で症例報告会を実施する。 ※3年次の「評価実習」および4年次の「臨床実習」において、合計320時間以上は病院または診療所で行うこととする。

成績評価基準

実習指導者の評価90%、学内での症例報告会10%
2回の実習成績を合計し、総合的に評価を行う

教科書

参考書

実務経験に関する内容

急性期や回復期リハ、児童発達支援・放課後等デイサービス等において言語聴覚士として
臨床経験を持つ教員が、臨床実習、症例報告等の指導を行う。

授業科目名	言語聴覚療法学特論			(フリガナ) 担当教員名	アオキ　コウ　ホンダ　マナミ 青木　耕　本多　真奈美 クリバヤシ　カズキ　ヒラカワ　チエコ 栗林　一樹　平川　智恵子
開講学年	4年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	8	時間数	120

授業概要

言語聴覚療法を効果的に行うため、必要な一般臨床医学を学ぶ。講義およびシェア学習を通して国家試験合格を目指す。

GIO（一般目標）

基本的な一般臨床医学の知識を身に付ける。国家試験合格に必要な専門・基礎知識を身につける。

SBO（行動目標）

①言語聴覚士に必要な医学的な病態と治療方法について説明できる。
②基礎科目については最低でも5割の正答率を残す。
③専門科目は最低でも8割の正答率を残す。

授業回数	授業内容	授業回数	授業内容
第1回	一般臨床医学：外科総論①	第31回	リハビリテーション医学①
第2回	一般臨床医学：外科総論②	第32回	リハビリテーション医学②
第3回	一般臨床医学：脳神経外科総論①	第33回	リハビリテーション医学③
第4回	一般臨床医学：脳神経外科総論②	第34回	耳鼻咽喉科学①
第5回	一般臨床医学：皮膚疾患	第35回	耳鼻咽喉科学②
第6回	一般臨床医学：泌尿器・生殖器	第36回	臨床神経学①
第7回	一般臨床医学：婦人科・産科疾患	第37回	臨床神経学②
第8回	一般臨床医学：眼疾患①	第38回	形成外科学①
第9回	一般臨床医学：眼疾患②	第39回	形成外科学②
第10回	一般臨床医学：特殊な疾患①	第40回	臨床歯科医学
第11回	一般臨床医学：特殊な疾患②	第41回	学習認知心理学①
第12回	一般臨床医学：特殊な疾患③	第42回	学習認知心理学②
第13回	一般臨床医学：プライマリケア①	第43回	臨床心理学①
第14回	一般臨床医学：プライマリケア②	第44回	臨床心理学②
第15回	一般臨床医学：プライマリケア③	第45回	生涯発達心理学①
第16回	解剖学①	第46回	生涯発達心理学②
第17回	解剖学②	第47回	心理測定法①
第18回	解剖学③	第48回	心理測定法②
第19回	生理学①	第49回	言語学①
第20回	生理学②	第50回	言語学②
第21回	生理学③	第51回	音響学①
第22回	病理学①	第52回	音響学②
第23回	病理学②	第53回	聴覚心理学①
第24回	病理学③	第54回	聴覚心理学②
第25回	内科学①	第55回	言語発達学①
第26回	内科学②	第56回	言語発達学②
第27回	内科学③	第57回	社会福祉・教育学①
第28回	精神医学①	第58回	社会福祉・教育学②
第29回	精神医学②	第59回	言語聴覚障害総論①
第30回	精神医学③	第60回	言語聴覚障害総論②

成績評価基準

試験100%

教科書

医歯薬出版　編；言語聴覚士　国家試験　必修ポイント　ST基礎科目2023．医歯薬出版株式会社．2022
医歯薬出版　編；言語聴覚士　国家試験　必修ポイント　ST専門科目2023．医歯薬出版株式会社．2022

参考書

実務経験に関する内容

急性期や回復期リハ、児童発達支援・放課後等デイサービス等において言語聴覚士として臨床経験を持つ教員が、
言語聴覚士国家試験に向けて指導する。

授業科目名	HR			(フリガナ) 担当教員名	アオキ　コウ　ホンダ　マナミ 青木　耕　本多　真奈美 クリバヤシ　カズキ　ヒラカワ　チエコ 栗林　一樹　平川　智恵子
開講学年	4年	開講学期	通年	必修／選択	選択
授業形態	講義	単位数	8	時間数	120

授業概要

自分の課題を分析し、適切な目標を立て実習や就職に向けての準備を行う。国家試験に向け、シェア学習を通して知識を深める。

GIO（一般目標）

実習を振り返り職業倫理について深く考える。また、国家試験に向けて基礎知識・専門知識を復習し習得する。

SBO（行動目標）

①実習の自己課題を説明できる。
②担当科目を復習し説明できる。

授業回数	授業内容	授業回数	授業内容
第1回	長期臨床実習ガイダンス	第31回	シェア学習【聴覚系の構造・機能・病態】
第2回	評価実習記録表　作成	第32回	シェア学習【聴覚系の構造・機能・病態】
第3回	第Ⅰ期臨床実習　個人調書作成	第33回	シェア学習【聴覚系】
第4回	第Ⅰ期臨床実習　個人調書作成	第34回	シェア学習【聴覚系】
第5回	第Ⅰ期臨床実習　個人調書作成	第35回	シェア学習【聴覚系】
第6回	第Ⅰ期臨床実習記録表　作成	第36回	シェア学習【聴覚系】
第7回	第Ⅰ期臨床実習記録表　作成	第37回	シェア学習【小児】
第8回	就職試験オリエンテーション	第38回	シェア学習【小児】
第9回	就職試験オリエンテーション	第39回	シェア学習【小児】
第10回	第Ⅱ期臨床実習　個人調書作成	第40回	シェア学習【小児】
第11回	第Ⅱ期臨床実習　個人調書作成	第41回	シェア学習【小児】
第12回	第Ⅱ期臨床実習　個人調書作成	第42回	シェア学習【心理系】
第13回	第Ⅱ期臨床実習記録表　作成	第43回	シェア学習【心理系】
第14回	第Ⅱ期臨床実習記録表　作成	第44回	シェア学習【心理系】
第15回	第25回言語聴覚士国家試験　受験手続	第45回	シェア学習【心理系】
第16回	第25回言語聴覚士国家試験　受験手続	第46回	シェア学習【解剖学】
第17回	第25回言語聴覚士国家試験　受験手続	第47回	シェア学習【解剖学】
第18回	シェア学習【失語症】	第48回	シェア学習【生理学】
第19回	シェア学習【失語症】	第49回	シェア学習【生理学】
第20回	シェア学習【失語症】	第50回	シェア学習【神経系】
第21回	シェア学習【高次脳機能障害】	第51回	シェア学習【神経系】
第22回	シェア学習【高次脳機能障害】	第52回	シェア学習【音声学】
第23回	シェア学習【高次脳機能障害】	第53回	シェア学習【音声学】
第24回	シェア学習【摂食嚥下障害】	第54回	シェア学習【音声学】
第25回	シェア学習【摂食嚥下障害】	第55回	シェア学習【音声学】
第26回	シェア学習【摂食嚥下障害】	第56回	シェア学習【言語学】
第27回	シェア学習【運動性構音障害】	第57回	シェア学習【言語学】
第28回	シェア学習【器質性構音障害（成人）】	第58回	シェア学習【言語学】
第29回	シェア学習【器質性構音障害（小児）】	第59回	シェア学習【言語学】
第30回	シェア学習【機能性構音障害】	第60回	シェア学習【言語学】

成績評価基準

レポート提出100%

教科書

参考書

実務経験に関する内容

急性期や回復期リハ、児童発達支援・放課後等デイサービス等において言語聴覚士として臨床経験を持つ教員が、
言語聴覚士国家試験に向けて指導する。